目　次

本資料「札幌市の自殺の現状」について **1**
第１部　札幌市の自殺の状況 **4**
　１　死因順位別にみた年齢階級・死亡数・死亡率・構成割合 4
　２　自殺者数及び自殺死亡率の状況 6
　　（１）厚生労働省「人口動態統計」 6
　　（２）厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」 8
　３　年代別自殺者の状況 11
　　（１）自殺者数 11
　　（２）自殺死亡率 14
　４　職業別自殺者の状況 16
　５　原因・動機別自殺者の状況 18
　６　同居人の有無別自殺者の状況 20
　７　自殺未遂歴の有無別自殺者の状況 22
第２部　ライフステージと自殺の状況 **26**
　１　各年代における職業別自殺者の状況 26
　２　各年代における原因・動機別自殺者の状況 28
　　（１）学生・生徒等の自殺 29
　　（２）無職者の自殺 31
　　（３）有職者の自殺 35
第３部　各区における自殺の状況 **43**
　１　各区の自殺者数と自殺死亡率の推移 43
　２　各区の年代別の自殺者数と自殺死亡率 46
第４部　資料 **48**

本資料「札幌市の自殺の現状」について

本資料は、厚生労働省「人口動態統計」、同「地域における自殺の基礎資料」、警察庁「自殺統計」等のデータを元に作成していますが、以下のような集計方法の違いにより自殺者数に差異が生じています。

■　警察庁「自殺統計」と厚生労働省「人口動態統計」の違い

１　日本における外国人の取扱いの差異

「自殺統計」は、日本における日本人及び日本における外国人の自殺者数としているのに対し、「人口動態統計」は日本における日本人のみの自殺者数としています。

２　調査時点の差異

「自殺統計」は、捜査等により自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し計上しているのに対し、「人口動態統計」は自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明して死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合は、遡って自殺に計上しています。

３　計上地点の差異

「自殺統計」は発見地に計上しているのに対して、「人口動態統計」は住所地に計上しています。

出典：厚生労働省ホームページ「自殺統計と人口動態統計の違い」

■　厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」について

１　概要及び目的

地域における自殺の実態に基づいた対策が講じられるよう、厚生労働省自殺対策推進室において、警察庁から提供を受けた自殺データに基づいて、各年の全国・都道府県別・市区町村別自殺者数について再集計しています。

２　資料に用いられるデータについて

（１）自殺者数について

ア　各年の自殺者について、「住居地」及び「発見地」の２通りでそれぞれ集計しています。「住居地」とは、自殺者の住居があった場所を意味し、「発見地」とは、自殺死体が発見された場所を意味しています。

イ　各年の自殺者について、「発見日」及び「自殺日」の２通りでそれぞれ集計しています。「発見日」とは、自殺死体が発見された日を意味し、「自殺日」とは、自殺をした日を意味しています。

ウ　自殺の原因・動機に係る集計については、家族の証言等から自殺の原因・動機と考えられるものについて、原因・動機を４つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機の和と原因・動機特定者とは一致しません。

（２）自殺死亡率について

自殺者数を当該地方公共団体の人口で除し、これを10万人当たりの数値に換算したものです。各地方公共団体の人口は、「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」に基づき整理しています。

３　集計項目について

警察庁の自殺統計データにおける分類に基づき、以下のとおり区分しています。

（１）年齢階級について

20歳未満、20～29歳（20代）、30～39歳（30代）、40～49歳（40代）、50～59歳（50代）、60～69歳（60代）、70～79歳（70代）、80歳以上に区分しています。

（２）職業について

【大分類】

有職者、無職、不詳に区分しています。

【中分類】

ア　有職者

管理的職業従事者、専門的・技術的職業従事者、事務従事者、販売従事者、サービス業従事者、保安職従事者、農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、通信・運輸・清掃・包装等従事者、その他

イ　無職

学生・生徒等、無職者

学生・生徒等については、以下の６区分に内数として別立てで表記。

・６区分　未就学児童、小学生、中学生、高校生、大学生、専修学校生等無職者については、以下の４区分ないしは６区分を内数として別立てで表記。

・４区分　主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者、その他無職者

※その他無職者には主婦、失業者、年金・雇用保険等生活者以外のすべての無職者（利子・配当・家賃等生活者、ホームレス、その他の無職者）が含まれます。

・６区分　主婦、失業者、利子・配当・家賃等生活者、年金・雇用保険等生活者、ホームレス、その他の無職者

（３）原因・動機について

家庭問題、健康問題、経済・生活問題、勤務問題、交際問題、学校問題、その他、不詳に区分しています。

（４）場所について

【大分類】

自宅等、高層ビル、乗物、海（湖）、河川等、山、その他、不詳

【小分類】

自宅、実家（自宅を除く）、下宿・寮、学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、高層ビル、駅構内、鉄道線路、乗物、路上、公園、社寺境内、田畑、海（湖）・河川、池・沼、山、その他、不詳

※大分類における自宅等、海（湖）・河川等及びその他の各項目については、以下の小分類を足し合わせています。

・自宅等
自宅、実家（自宅を除く）、下宿・寮
・海（湖）・河川等
海（湖）・河川、池・沼
・その他
学校、勤め先、病院、福祉施設、ホテル・旅館、デパート、駅構内、鉄道線路、路上、公園、社寺境内、田畑、その他

■　本書で使用している統計について

市民の自殺の実態について把握するため、本書では、厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」のうち、以下の条件で計上されたデータを用いています。

・「自殺日」（自殺が実際に起こった日に焦点をあてるため）
・「居住地」（市民の自殺の実態について把握するため）

※本書では、全国・北海道・他政令指定都市の自殺者数及び自殺死亡率についても、札幌市の集計に合わせて「自殺日・住居地」で計上されたデータを用いているため、各自治体が公表している値とは異なる場合があります。

第１部　札幌市の自殺の状況

札幌市の自殺の現状について、厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を中心とした各種関連資料を基に、他政令指定都市などとの比較も踏まえながら見ていきます。

１　死因順位別にみた年齢階級・死亡数・死亡率・構成割合

全国では10～39歳のすべての年齢階級において、死因の第１位が「自殺」となっています。札幌市においても、15～39歳の年齢階級で「自殺」が死因の第１位を占めており、若年層における自殺が深刻な状況であることが分かります。

全国・札幌市ともに、40歳以上になると死因の第１位は「悪性新生物」に変わります。しかし、自殺がなくなるわけではなく、全国では40～49歳で第２位、50～54歳で第３位に入っています。札幌市でも、40～54歳までの死因第２位が「自殺」となっており、中高年層においても、自殺による死亡が多いことが読み取れます。

表１　全国における死因順位別にみた年齢階級・死亡数・死亡率（2024年）

（単位：人口10万人あたり）

年齢階級	第１位			第２位			第３位		
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率
10～14歳	自殺	132	2.6	悪性新生物	95	1.9	不慮の事故	51	1
15～19歳	自殺	627	11.8	不慮の事故	167	3.1	悪性新生物	120	2.3
20～24歳	自殺	1,219	21.4	不慮の事故	242	4.3	悪性新生物	158	2.8
25～29歳	自殺	1,127	19.1	不慮の事故	248	4.2	悪性新生物	223	3.8
30～34歳	自殺	1,121	18.9	悪性新生物	428	7.2	心疾患	213	3.6
35～39歳	自殺	1,212	18.5	悪性新生物	902	13.8	心疾患	374	5.7
40～44歳	悪性新生物	1,768	24	自殺	1,407	19.1	心疾患	690	9.4
45～49歳	悪性新生物	3,913	45.8	自殺	1,721	20.1	心疾患	1,434	16.8
50～54歳	悪性新生物	7,700	80.1	心疾患	2,823	29.4	自殺	1,985	20.7
55～59歳	悪性新生物	11,330	135.9	心疾患	3,980	47.7	脳血管疾患	2,207	26.5
60～64歳	悪性新生物	17,064	228.8	心疾患	5,432	72.8	脳血管疾患	2,745	36.8

資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成

表２　札幌市における死因順位別にみた年齢階級・死亡数・死亡率（2024年）

（単位：人口10万人あたり）

年齢階級	第１位			第２位			第３位		
	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率	死因	死亡数	死亡率
10～14歳	悪性新生物 不慮の事故	2	2.6	－	－	－	その他の新生物、先天奇形、変形及び染色体異常	1	1.3
15～19歳	自殺	2	2.5	脳血管疾患 肺炎	1	1.3	－	－	－
20～24歳	自殺	30	32.3	悪性新生物 不慮の事故	4	4.3	－	－	－
25～29歳	自殺	25	25.6	心疾患	3	3.1	悪性新生物 脳血管疾患 不慮の事故	2	2
30～34歳	自殺	18	17.8	悪性新生物	4	4	心疾患	2	2
35～39歳	自殺	30	26.7	悪性新生物	16	14.2	肝　疾　患	7	6.2
40～44歳	悪性新生物	35	27.8	自殺	32	25.4	脳血管疾患	14	11.1
45～49歳	悪性新生物	79	54.8	自殺	28	19.4	肝　疾　患	21	14.6
50～54歳	悪性新生物	150	95.9	自殺	38	24.3	心疾患	33	21.1
55～59歳	悪性新生物	199	145.8	心疾患	47	34.4	脳血管疾患	36	26.4
60～64歳	悪性新生物	306	241.4	心疾患	69	54.4	脳血管疾患	41	32.3

資料：札幌市衛生年報を基に作成

2　自殺者数及び自殺死亡率の状況

厚生労働省「人口動態統計」及び「地域における自殺の基礎資料」では、自殺者数や公表時期などに異なる点があるため、順に見ていきます。

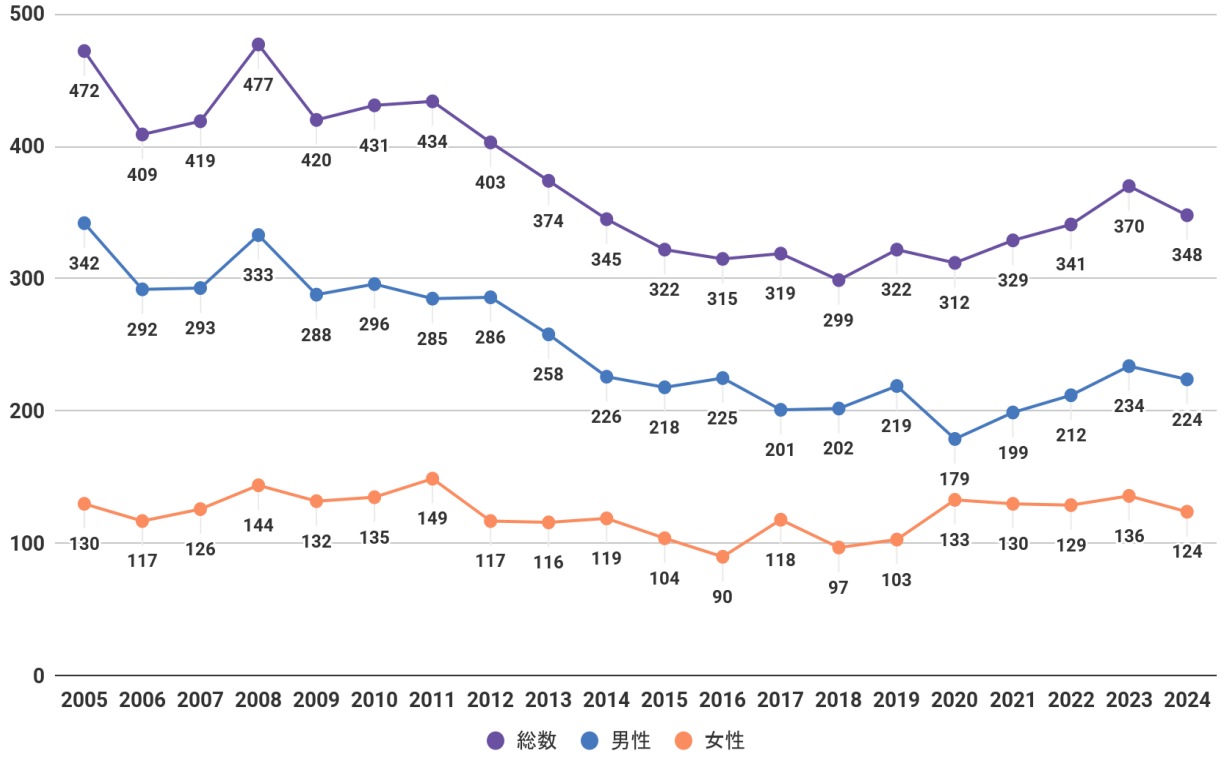
※統計の異なる点の詳細については、P.1「本資料「札幌市の自殺の現状」について」を参照してください。

（1）厚生労働省「人口動態統計」

札幌市における自殺者数は、2008年（平成20年）に477人と過去最多の人数を記録しましたが、2012年（平成24年）から減少に転じ、2018年（平成30年）には過去20年で最少となる299人まで減少しました。しかし、それ以降は微増または横ばいで推移し、年間自殺者数が300人を超える状況が続いています。

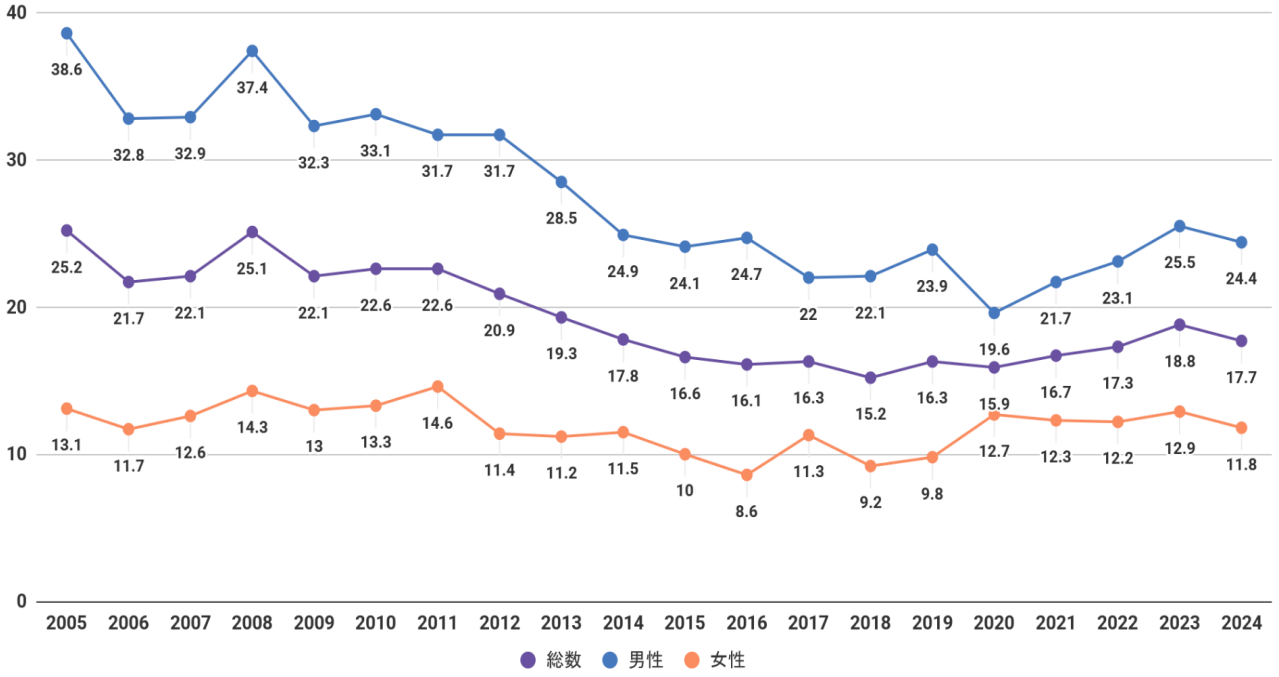
過去20年間のすべての年において、男性の自殺者数および自殺死亡率は女性よりも高く推移しています。しかし、20年間での変化を見ると、男性の自殺者数は2005年（平成17年）から2024年（令和６年）までに大きく減少したのに対し、女性の自殺者数は、一時は減少が見られたものの、近年は2005年（平成17年）と同程度の水準に戻っていることが読み取れます。

図１　自殺者の推移　　（単位：人）



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成

図２　自殺死亡率の推移　　（単位：人口10万人あたり）



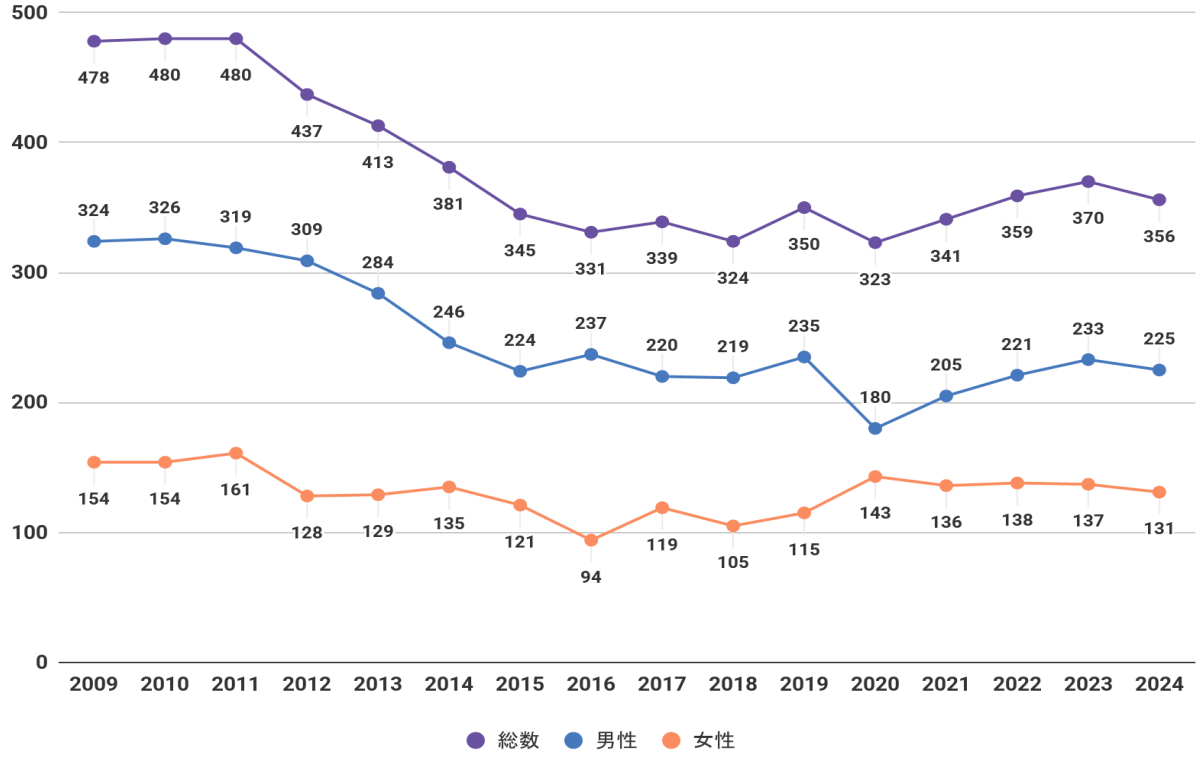
資料：厚生労働省「人口動態統計」及び札幌市衛生年報を基に作成

（２）厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

札幌市における自殺者数は、2012年（平成24年）から減少に転じたものの、近年は微増または横ばいとなっており、「人口動態統計」と同様の傾向が読み取れます。

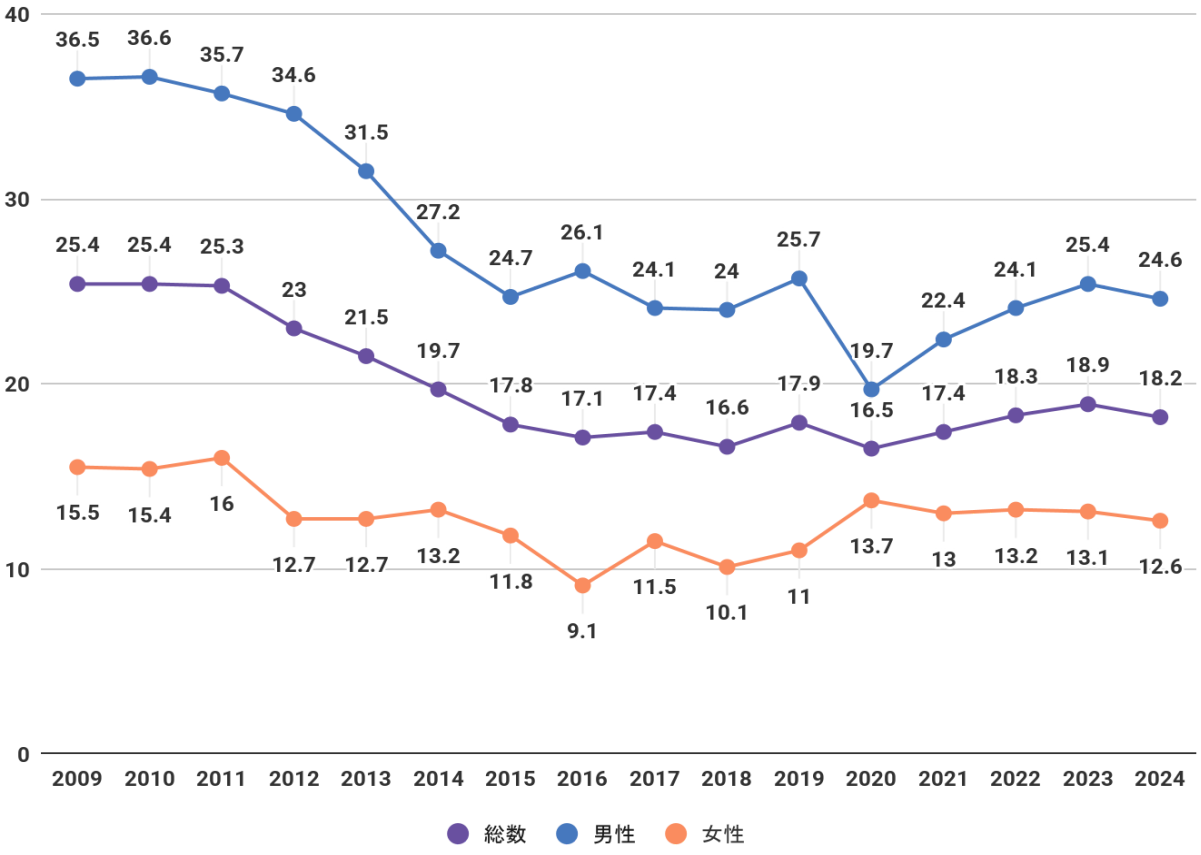
2024年（令和６年）の札幌市の自殺者数（総数）は、政令指定都市の中で４番目に多い人数となっています。また、2024年（令和６年）の札幌市の自殺死亡率は全国平均を大きく上回っており、政令指定都市の中で比較しても２番目に高い数値となっています。なお、北海道全体の自殺死亡率も全国平均より高くなっています。

図３　自殺者数の推移　　（単位：人）



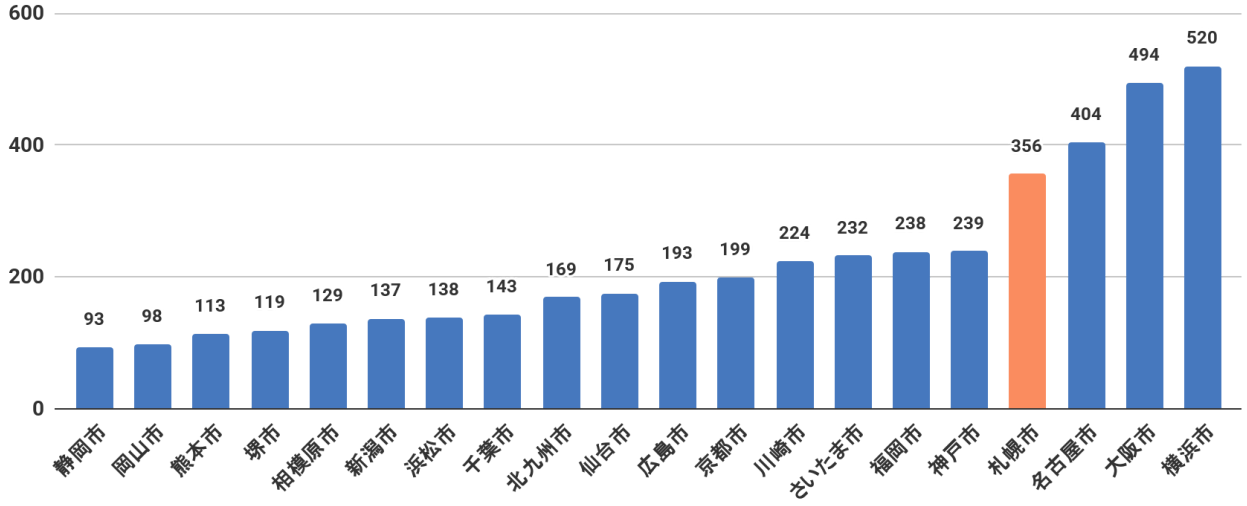
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図４　自殺死亡率の推移　　（単位：人口10万人あたり）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

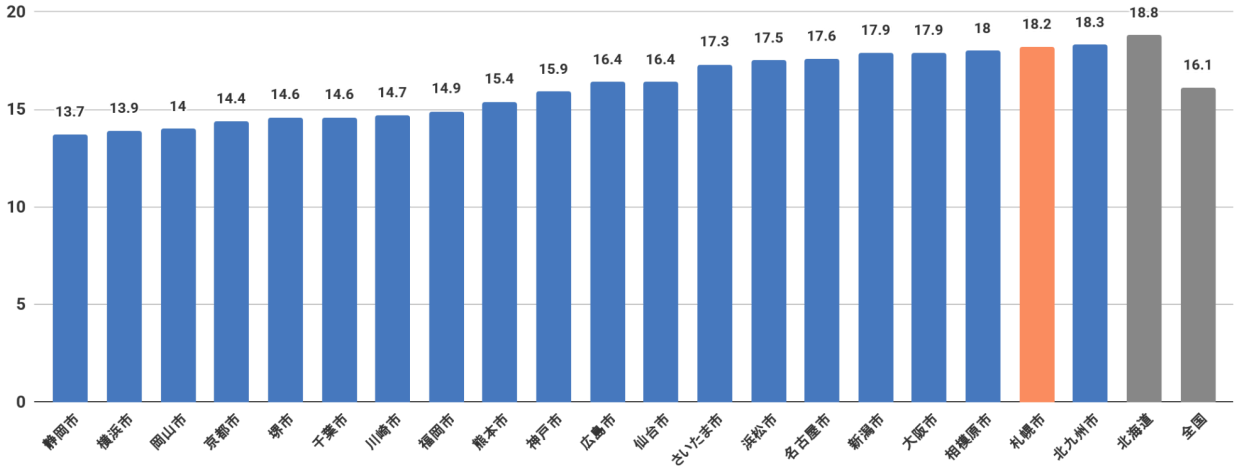
図５　各政令指定都市の自殺者数（2024年）　　（単位：人）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図６　各政令指定都市及び北海道・全国の自殺死亡率（2024年）

（単位：人口10万人あたり）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

※ここで示す全国・北海道・他政令指定都市の自殺者数及び自殺死亡率は、札幌市の集計に合わせて「自殺日・住居地」で計上されたデータを用いているため、各自治体が公表している値とは異なる場合があります。

3　年代別自殺者の状況

（1）自殺者数

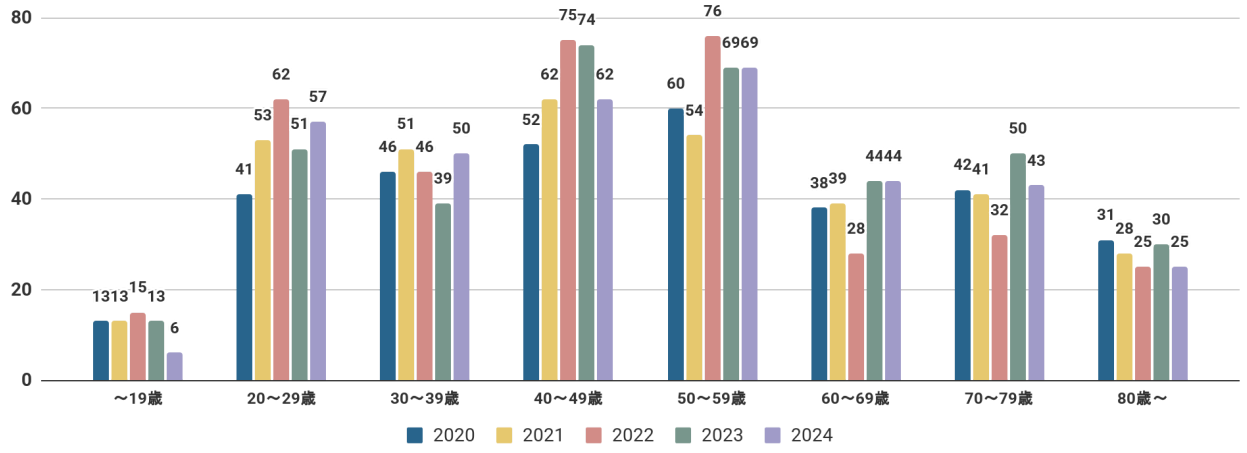
札幌市では、40代と50代の自殺者が多い傾向にあります。

男性の自殺者数を見ると、40代・50代の多さがさらに目立ちます。2024年（令和６年）は、男性の自殺者全体の約４割が40代・50代で占められています。過去５年を通じて、この働き盛りの年代が高い水準で推移しています。

女性では、男性と比べて特定の年代への突出した集中は見られず、広い年代に分散していることがわかります。また、直近５年間で、50代は減少傾向にある一方で、20代・30代の若い世代は横ばいに推移しています。

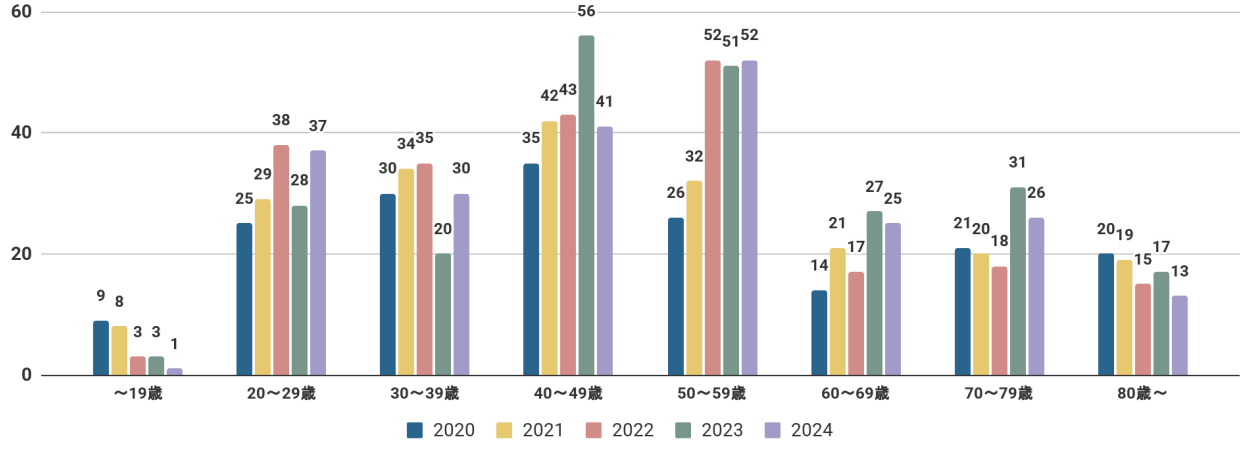
札幌市における年代別の自殺者数を他の政令指定都市と比較すると、19歳以下は相対的に少ないものの、20代以上の各年代では３番目～５番目に多くなっています。

図７　年代別自殺者数（総数）　（単位：人）



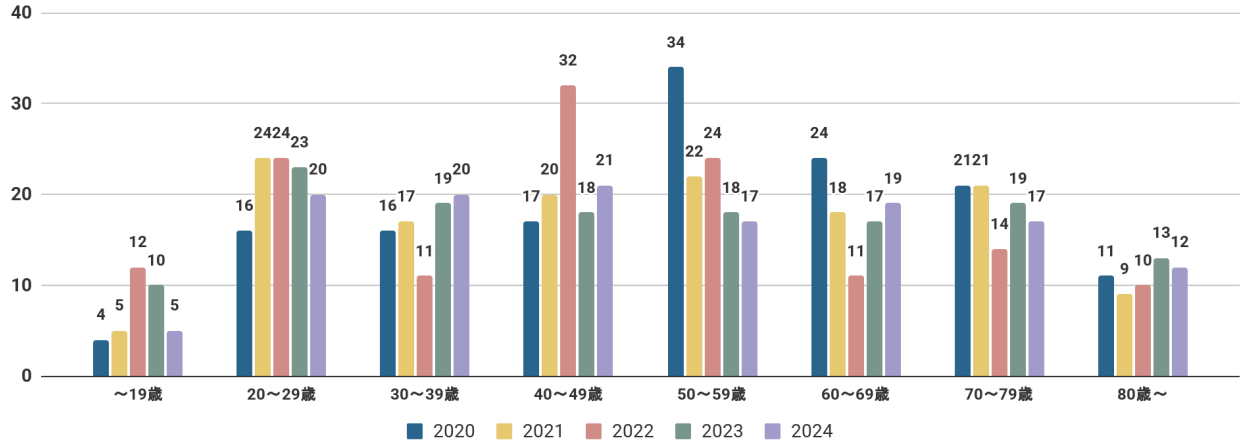
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図８　年代別自殺者数（男性）　（単位：人）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図９　年代別自殺者数（女性）　（単位：人）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表３　年代別自殺者数（総数）　（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
2020	13	41	46	52	60	38	42	31	323
2021	13	53	51	62	54	39	41	28	341
2022	15	62	46	75	76	28	32	25	359
2023	13	51	39	74	69	44	50	30	370
2024	6	57	50	62	69	44	43	25	356

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表４　年代別自殺者数（男性）　（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
2020	9	25	30	35	26	14	21	20	180
2021	8	29	34	42	32	21	20	19	205
2022	3	38	35	43	52	17	18	15	221
2023	3	28	20	56	51	27	31	17	233
2024	1	37	30	41	52	25	26	13	225

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表５　年代別自殺者数（女性）　（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
2020	4	16	16	17	34	24	21	11	143
2021	5	24	17	20	22	18	21	9	136
2022	12	24	11	32	24	11	14	10	138
2023	10	23	19	18	18	17	19	13	137
2024	5	20	20	21	17	19	17	12	131

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表６　各政令指定都市の年代別自殺者数（2024年）　　（単位：人）

順位	～19歳		20～29歳		30歳～39歳		40歳～49歳	
	自治体名	自殺者数	自治体名	自殺者数	自治体名	自殺者数	自治体名	自殺者数
1	横浜市	26	横浜市	82	大阪市	69	大阪市	93
2	大阪市	18	名古屋市	68	横浜市	65	横浜市	77
3	名古屋市	17	大阪市	64	名古屋市	54	札幌市	62
4	千葉市	15	札幌市	57	札幌市	50	名古屋市	57
5	さいたま市	14	福岡市	48	福岡市	37	福岡市	47
6	福岡市	14	京都市	43	川崎市	33	さいたま市	44
7	川崎市	11	さいたま市	37	神戸市	31	川崎市	39
8	仙台市	10	神戸市	35	広島市	30	北九州市	38
9	神戸市	10	川崎市	34	仙台市	27	京都市	36
10	京都市	9	仙台市	33	さいたま市	26	神戸市	30
11	広島市	7	千葉市	18	新潟市	20	広島市	29
12	札幌市	6	相模原市	17	京都市	20	熊本市	25
13	岡山市	6	広島市	17	千葉市	19	浜松市	23
14	相模原市	5	静岡市	14	北九州市	19	仙台市	21
15	堺市	5	浜松市	14	堺市	18	千葉市	19
16	静岡市	4	堺市	14	熊本市	15	新潟市	19
17	浜松市	4	北九州市	14	相模原市	14	岡山市	19
18	新潟市	2	新潟市	11	浜松市	12	相模原市	17
19	北九州市	2	岡山市	11	静岡市	9	静岡市	14
20	熊本市	2	熊本市	8	岡山市	8	堺市	14
	北海道	32	北海道	116	北海道	114	北海道	167
	全国	795	全国	2,447	全国	2,377	全国	3,172

順位	50歳～59歳		60歳～69歳		70歳～79歳		80歳～	
	自治体名	自殺者数	自治体名	自殺者数	自治体名	自殺者数	自治体名	自殺者数
1	横浜市	116	大阪市	65	大阪市	53	名古屋市	52
2	大阪市	89	横浜市	57	横浜市	47	横浜市	50
3	名古屋市	71	札幌市	44	札幌市	43	大阪市	43
4	札幌市	69	名古屋市	42	名古屋市	43	神戸市	39
5	神戸市	45	川崎市	35	広島市	27	札幌市	25
6	さいたま市	40	神戸市	27	北九州市	27	新潟市	24
7	福岡市	37	広島市	26	さいたま市	25	さいたま市	22
8	北九州市	36	さいたま市	24	福岡市	25	広島市	22
9	川崎市	35	京都市	24	京都市	22	浜松市	21
10	広島市	35	仙台市	21	神戸市	22	北九州市	20
11	京都市	33	熊本市	18	川崎市	19	仙台市	19
12	仙台市	32	浜松市	17	新潟市	19	川崎市	18
13	相模原市	31	福岡市	17	静岡市	18	相模原市	18
14	浜松市	31	新潟市	16	相模原市	17	千葉市	14
15	堺市	29	岡山市	16	熊本市	17	福岡市	13
16	千葉市	27	堺市	15	千葉市	16	熊本市	13
17	新潟市	26	千葉市	14	浜松市	16	京都市	12
18	岡山市	19	北九州市	13	堺市	15	堺市	9
19	静岡市	17	静岡市	12	仙台市	12	岡山市	9
20	熊本市	15	相模原市	10	岡山市	10	静岡市	5
	北海道	174	北海道	107	北海道	142	北海道	106
	全国	3,745	全国	2,562	全国	2,660	全国	2,339

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

（２）自殺死亡率

実数（人数）では「40代・50代の中高年層が多い」という結果でしたが、自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）で見ると実態が異なります。2024年（令和６年）の年代別自殺死亡率では、全体（総数）・男性・女性のいずれにおいても、20代の自殺死亡率が最も高くなっています。また、過去５年間の推移を見ると、全体（総数）の20代の死亡率は、2020年（令和２年）の20.6から2024年（令和６年）には28.7へと大きく増加しています。

他の政令指定都市と比較すると、札幌市の20代の自殺死亡率は、全国平均を大きく上回り、20都市中で最も高い値となっています。30代は第３位、40代は第５位、50代は第４位と、20代～50代にかけても高い値となっています。

表７　年代別自殺死亡率（総数）　（単位：人口10万人あたり）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	全体
2020	4.3	20.6	19.4	17.3	22.6	14.4	17.9	19.7	16.5
2021	4.4	26.7	21.9	20.9	19.9	15.2	16.8	17.1	17.4
2022	5.1	31.4	20.1	25.7	27.4	11.1	12.9	14.7	18.3
2023	4.5	25.7	17.3	26.0	24.3	17.7	19.8	17.1	18.9
2024	2.1	28.7	22.7	22.3	23.8	17.8	16.9	13.8	18.2

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成

表８　年代別自殺死亡率（男性）　（単位：人口10万人あたり）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	全体
2020	5.9	26.0	26.1	24.1	20.7	11.3	20.5	37.4	19.7
2021	5.3	30.2	30.0	29.2	25.0	17.4	18.7	34.0	22.4
2022	2.0	39.6	31.4	30.5	39.6	14.4	16.4	25.8	24.1
2023	2.0	28.8	18.3	40.7	37.8	23.1	27.7	28.4	25.4
2024	0.7	37.9	28.0	30.5	37.7	21.4	23.0	21.0	24.6

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成

表９　年代別自殺死亡率（女性）　（単位：人口10万人あたり）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	全体
2020	2.7	15.5	13.1	11.0	24.2	17.2	16.0	10.6	13.7
2021	3.4	23.5	14.2	13.0	15.4	13.3	15.4	8.3	13
2022	8.3	23.7	9.3	21.3	16.5	8.3	10.1	8.9	13.2
2023	7.0	22.7	16.4	12.2	12.1	12.9	13.4	11.2	13.1
2024	3.6	19.8	17.7	14.6	11.2	14.5	12.0	10.0	12.6

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成

表10　各政令指定都市及び北海道・全国の年代別自殺死亡率（2024年）

（単位：人口10万人あたり）

順位	～19歳		20～29歳		30歳～39歳		40歳～49歳	
	自治体名	自殺死亡率	自治体名	自殺死亡率	自治体名	自殺死亡率	自治体名	自殺死亡率
1	千葉市	9.8	札幌市	28.7	新潟市	24.8	北九州市	32.0
2	さいたま市	6.1	仙台市	26.5	広島市	23.0	熊本市	25.3
3	仙台市	5.8	京都市	26.1	札幌市	22.7	大阪市	24.1
4	福岡市	5.1	名古屋市	24.6	堺市	21.5	さいたま市	22.5
5	岡山市	4.9	さいたま市	24.2	北九州市	20.8	札幌市	22.3
6	名古屋市	4.6	福岡市	22.9	仙台市	20.6	浜松市	21.6
7	大阪市	4.6	神戸市	22.6	神戸市	20.2	福岡市	19.8
8	相模原市	4.5	相模原市	21.7	名古屋市	19.1	岡山市	19.8
9	川崎市	4.5	静岡市	21.5	大阪市	18.8	京都市	19.6
10	横浜市	4.4	横浜市	19.4	熊本市	18.5	新潟市	17.9
11	京都市	4.4	浜松市	18.0	福岡市	17.7	名古屋市	17.8
12	神戸市	4.2	大阪市	17.1	千葉市	17.6	広島市	17.4
13	静岡市	3.9	川崎市	16.5	相模原市	17.4	相模原市	16.8
14	堺市	3.7	千葉市	16.5	川崎市	15.5	川崎市	16.7
15	広島市	3.4	堺市	16.5	さいたま市	15.3	静岡市	15.9
16	浜松市	3.0	新潟市	15.9	横浜市	15.1	神戸市	14.9
17	札幌市	2.1	北九州市	15.4	浜松市	14.2	横浜市	14.5
18	新潟市	1.7	岡山市	14.3	京都市	13.7	千葉市	13.9
19	熊本市	1.5	広島市	13.8	静岡市	13.1	仙台市	13.4
20	北九州市	1.3	熊本市	10.6	岡山市	10.3	堺市	12.7
	北海道	4.4	北海道	25.6	北海道	22.5	北海道	24.8
	全国	4.0	全国	19.1	全国	17.5	全国	18.7

順位	50歳～59歳		60歳～69歳		70歳～79歳		80歳～	
	自治体名	自殺死亡率	自治体名	自殺死亡率	自治体名	自殺死亡率	自治体名	自殺死亡率
1	北九州市	28.6	川崎市	23.4	北九州市	20.8	新潟市	30.1
2	浜松市	27.3	大阪市	22.8	熊本市	19.4	相模原市	27.8
3	相模原市	26.9	岡山市	20.5	相模原市	19.3	浜松市	26.7
4	札幌市	23.8	熊本市	20.2	静岡市	19.1	名古屋市	25.7
5	新潟市	23.8	広島市	20.2	広島市	18.8	神戸市	25.6
6	堺市	23.1	浜松市	17.9	新潟市	18.0	仙台市	21.8
7	大阪市	21.9	札幌市	17.8	さいたま市	17.9	広島市	21.2
8	仙台市	20.8	堺市	17.6	大阪市	17.5	さいたま市	20.5
9	名古屋市	20.7	仙台市	17.4	札幌市	16.9	北九州市	19.3
10	神戸市	20.0	さいたま市	17.0	名古屋市	16.8	熊本市	19.1
11	広島市	19.9	名古屋市	16.8	浜松市	16.0	大阪市	17.8
12	岡山市	19.4	新潟市	16.6	福岡市	15.4	川崎市	17.2
13	さいたま市	19.3	京都市	15.7	堺市	13.9	千葉市	15.4
14	横浜市	18.9	神戸市	15.1	川崎市	13.7	横浜市	15.1
15	千葉市	17.1	静岡市	14.5	千葉市	13.6	札幌市	13.8
16	静岡市	16.8	横浜市	13.7	京都市	12.5	岡山市	13.7
17	福岡市	16.8	千葉市	13.3	岡山市	11.8	福岡市	11.5
18	京都市	16.0	相模原市	12.6	横浜市	11.3	堺市	10.9
19	熊本市	15.3	北九州市	11.7	神戸市	11.2	京都市	8.4
20	川崎市	14.7	福岡市	10.3	仙台市	9.9	静岡市	6.6
	北海道	24.0	北海道	15.8	北海道	18.8	北海道	18.5
	全国	20.7	全国	17.3	全国	16.5	全国	18.8

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成

※順位は、小数点第２位以下で判断

4　職業別自殺者の状況

2024年（令和６年）の総数で見ると、職業別の自殺者数は「有職者」が最も多く、次いで多いのが「年金・雇用保険等生活者」となっており、この２つのグループだけで全体の約７割を占めています。

しかし、男女別に見ると、男性では圧倒的に「有職者」が多く、2024年（令和６年）は男性全体の半数近くを占め、次いで多いのが「年金・雇用保険等生活者」であるのに対し、女性では「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで多いのが「有職者」となっています。

他の政令指定都市や全国平均との比較において、札幌市の職業別の割合に特異的な傾向は見られません。

※2022年（令和４年）統計より、集計項目が有職者（＝自営業・家族従業者＋被雇用・勤め人）となりました。

表11　職業別自殺者数（総数）　（単位：人）

	自営業・家族従業者	被雇用者・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	合計
2020	14	103	13	22	6	71	93	1	323
2021	17	106	19	19	13	81	78	8	341
	有職者		学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	合計
2022	144		21	18	17	102	56	1	359
2023	158		14	16	10	105	57	10	370
2024	143		10	15	18	105	59	6	356

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表12　職業別自殺者数（男性）　（単位：人）

	自営業・家族従業者	被雇用者・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	合計
2020	13	70	11		3	35	47	1	180
2021	16	66	14		12	40	49	8	205
	有職者		学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	合計
2022	110		8	0	16	47	40		221
2023	124		5		9	52	37	6	233
2024	107		4		12	59	39	4	225

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

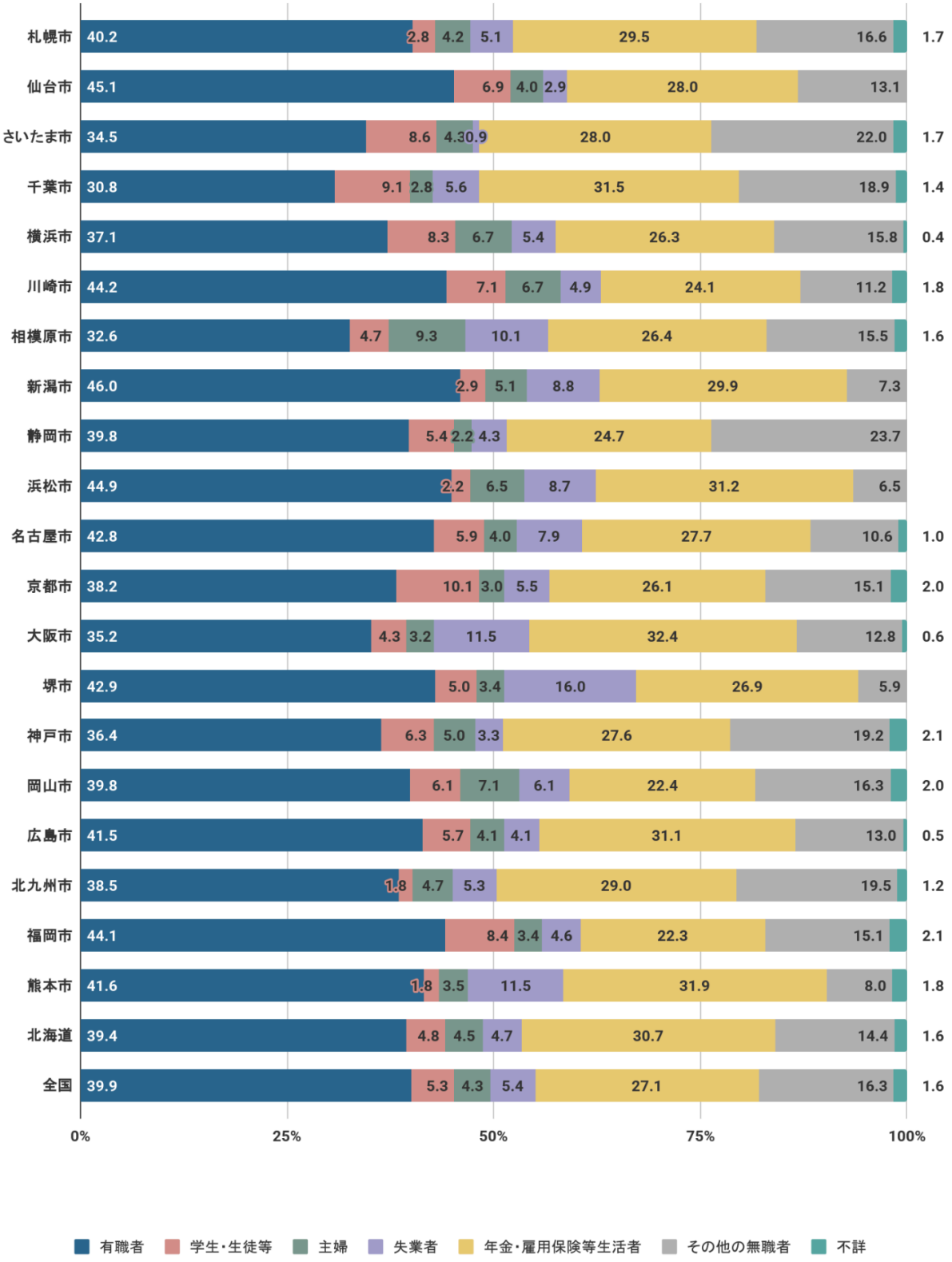
表13　職業別自殺者数（女性）　（単位：人）

	自営業・家族従業者	被雇用者・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	合計
2020	1	33	2	22	3	36	46		143
2021	1	40	5	19	1	41	29		136
	有職者		学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	合計
2022	34		13	18	1	55	16	1	138
2023	34		9	16	1	53	20	4	137
2024	36		6	15	6	46	20	2	131

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図10　各政令指定都市及び北海道・全国の職業別自殺者の割合（2024年）

（単位：%）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

5　原因・動機別自殺者の状況

2024年（令和６年）の札幌市における自殺の原因・動機の総数では「健康問題」が最多となっています。しかし、男女別に見ると、女性の最多は「健康問題」ですが、男性の最多は「経済・生活問題」となっており、男女で主な原因・動機が異なっていることがわかります。

全国平均と比較すると、「経済・生活問題」、「勤務問題」及び「交際問題」の割合が高くなっています。

※2022年（令和４年）統計からは、以下のとおり、集計項目名、原因・動機における計上基準及び計上可能数が変更されました。

〇集計項目名

「男女問題」から「交際問題」に変更。

〇原因・動機における計上基準及び計上可能数

2021年（令和３年）までは、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できるものを自殺者一人につき３つまで計上可能としていましたが、2022年（令和４年）からは遺書等に加え家族の証言等から自殺の原因・動機と考えられるものも含め自殺者一人につき４つまで計上可能となりました。

表14　原因・動機別件数（総数）　（単位：件）

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
2020	56	122	48	33	22	8	18
2021	56	117	63	27	21	4	21
2022	79	150	72	54	25	15	33
2023	84	144	117	57	25	7	27
2024	72	159	102	55	23	3	38

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成
※複数計上あり、不詳を除く

表15　原因・動機別件数（男性）　（単位：件）

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
2020	26	57	35	26	12	8	6
2021	31	53	56	21	10	2	15
2022	41	67	62	50	12	10	16
2023	49	62	99	48	10	2	15
2024	49	80	86	42	13	2	26

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成
※複数計上あり、不詳を除く

表16　原因・動機別件数（女性）　（単位：件）

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
2020	30	65	13	7	10	0	12
2021	25	64	7	6	11	2	6
2022	38	83	10	4	13	5	17
2023	35	82	18	9	15	5	12
2024	23	79	16	13	10	1	12

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成
※複数計上あり、不詳を除く

表17　各政令指定都市及び北海道・全国の原因・動機別自殺者の割合（2024年）
（単位：%）

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
札幌市	23.5	51.8	33.2	17.9	7.5	1.0	12.4
仙台市	28.8	72.4	35.3	20.0	4.7	1.8	10.0
さいたま市	15.2	63.6	12.0	6.0	2.3	1.8	1.4
千葉市	21.9	61.3	28.5	10.2	7.3	5.1	7.3
横浜市	27.6	65.7	23.7	12.9	4.5	4.5	10.2
川崎市	15.7	68.1	27.3	15.7	5.6	3.2	9.3
相模原市	20.5	62.2	30.7	10.2	6.3	2.4	3.9
新潟市	23.1	63.2	28.2	17.9	6.8	1.7	15.4
静岡市	24.2	64.8	14.3	16.5	8.8	3.3	15.4
浜松市	16.9	60.8	26.2	12.3	5.4	0.8	11.5
名古屋市	20.9	69.5	33.5	16.9	2.8	4.3	11.8
京都市	15.4	66.5	25.8	19.8	6.6	3.8	10.4
大阪市	21.2	90.1	37.0	9.1	6.8	2.3	8.8
堺市	26.1	79.0	31.9	20.2	4.2	3.4	8.4
神戸市	19.9	65.3	18.5	11.6	5.1	0.9	7.4
岡山市	21.6	62.2	23.0	18.9	4.1	4.1	1.4
広島市	27.9	66.1	28.4	20.8	2.7	4.9	9.8
北九州市	21.8	72.4	24.4	23.1	9.0	1.9	11.5
福岡市	23.5	67.6	33.8	15.0	6.1	3.8	7.0
熊本市	30.0	65.6	32.2	15.6	2.2	2.2	5.6
北海道	24.8	53.9	33.5	16.5	6.9	2.2	11.3
全国	23.4	65.7	27.6	14.0	4.7	3.1	9.3

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成
※数値は各原因・動機の件数を自殺者数（原因・動機「不詳」の者を除く）で除した値
※原因・動機は複数計上であるため、各自治体の合計は100%にならない

6　同居人の有無別自殺者の状況

過去５年間を通じて「同居人あり」が「同居人なし」を上回っているものの、同居人がいない自殺者も少なくない状況です。

他の政令指定都市においても、１つの市を除いて「同居人あり」が「同居人なし」を上回っています。札幌市と全国の状況を比較すると、「同居人なし」の自殺者の割合は、札幌市の方が約10ポイント高い状況でした。

表18　同居人の有無別自殺者数と割合（総数）　（単位：人（%））

	同居人あり	同居人なし	不詳	合計
2020	196 (60.7%)	127 (39.3%)	0 (0.0%)	323
2021	177 (51.9%)	163 (47.8%)	1 (0.3%)	341
2022	209 (58.2%)	150 (41.8%)	0 (0.0%)	359
2023	215 (58.1%)	154 (41.6%)	1 (0.3%)	370
2024	189 (53.1%)	167 (46.9%)	0 (0.0%)	356

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表19　同居人の有無別自殺者数と割合（男性）　（単位：人（%））

	同居人あり	同居人なし	不詳	合計
2020	104 (57.8%)	76 (42.2%)	0 (0.0%)	180
2021	101 (49.3%)	103 (50.2%)	1 (0.5%)	205
2022	124 (56.1%)	97 (43.9%)	0 (0.0%)	221
2023	132 (56.7%)	100 (42.9%)	1 (0.4%)	233
2024	118 (52.4%)	107 (47.6%)	0 (0.0%)	225

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

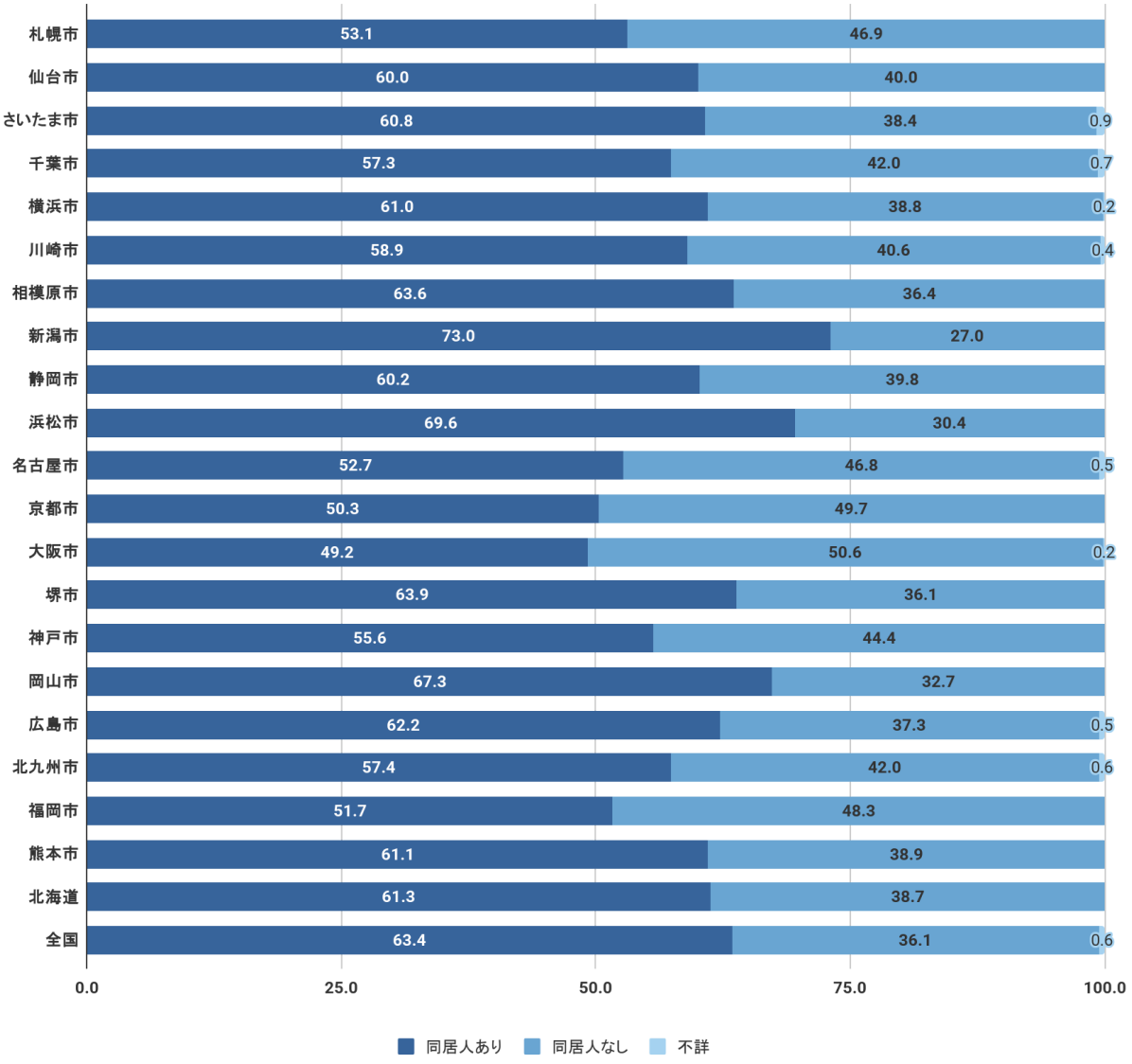
表20　同居人の有無別自殺者数と割合（女性）　（単位：人（%））

	同居人あり	同居人なし	不詳	合計
2020	92 (64.3%)	51 (35.7%)	0 (0.0%)	143
2021	76 (55.9%)	60 (44.1%)	0 (0.0%)	136
2022	85 (61.6%)	53 (38.4%)	0 (0.0%)	138
2023	83 (60.6%)	54 (39.4%)	0 (0.0%)	137
2024	71 (54.2%)	60 (45.8%)	0 (0.0%)	131

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図11　各政令指定都市及び北海道・全国の同居人の有無別自殺者の割合（2024年）

（単位：%）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

7　自殺未遂歴の有無別自殺者の状況

自殺者全体（総数）では、過去５年間を通じて「自殺未遂歴なし」が多数を占めています。男女別で見ると、男女ともに「未遂歴なし」が「未遂歴あり」を上回っていますが、女性は男性と比べ、「未遂歴なし」と「未遂歴あり」の差が小さいことが分かります。

また、他の政令指定都市の状況を見ても、「未遂歴なし」が「未遂歴あり」を上回っていますが、札幌市と全国の状況を比較すると、札幌市では「未遂歴あり」の割合が高い傾向にあります。

表21　自殺未遂歴の有無別自殺者数と割合（総数）　（単位：人（%））

	自殺未遂歴あり	自殺未遂歴なし	不詳	合計
2020	97 (30.0%)	160 (49.5%)	66 (20.4%)	323
2021	90 (26.4%)	185 (54.3%)	66 (19.4%)	341
2022	90 (25.1%)	228 (63.5%)	41 (11.4%)	359
2023	88 (23.8%)	236 (63.8%)	46 (12.4%)	370
2024	108 (30.3%)	207 (58.1%)	41 (11.5%)	356

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表22　自殺未遂歴の有無別自殺者数と割合（男性）　（単位：人（%））

	自殺未遂歴あり	自殺未遂歴なし	不詳	合計
2020	43 (23.9%)	97 (53.9%)	40 (22.2%)	180
2021	39 (19.0%)	120 (58.5%)	46 (22.4%)	205
2022	40 (18.1%)	159 (71.9%)	22 (10.0%)	221
2023	43 (18.5%)	158 (67.8%)	32 (13.7%)	233
2024	49 (21.8%)	151 (67.1%)	25 (11.1%)	225

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

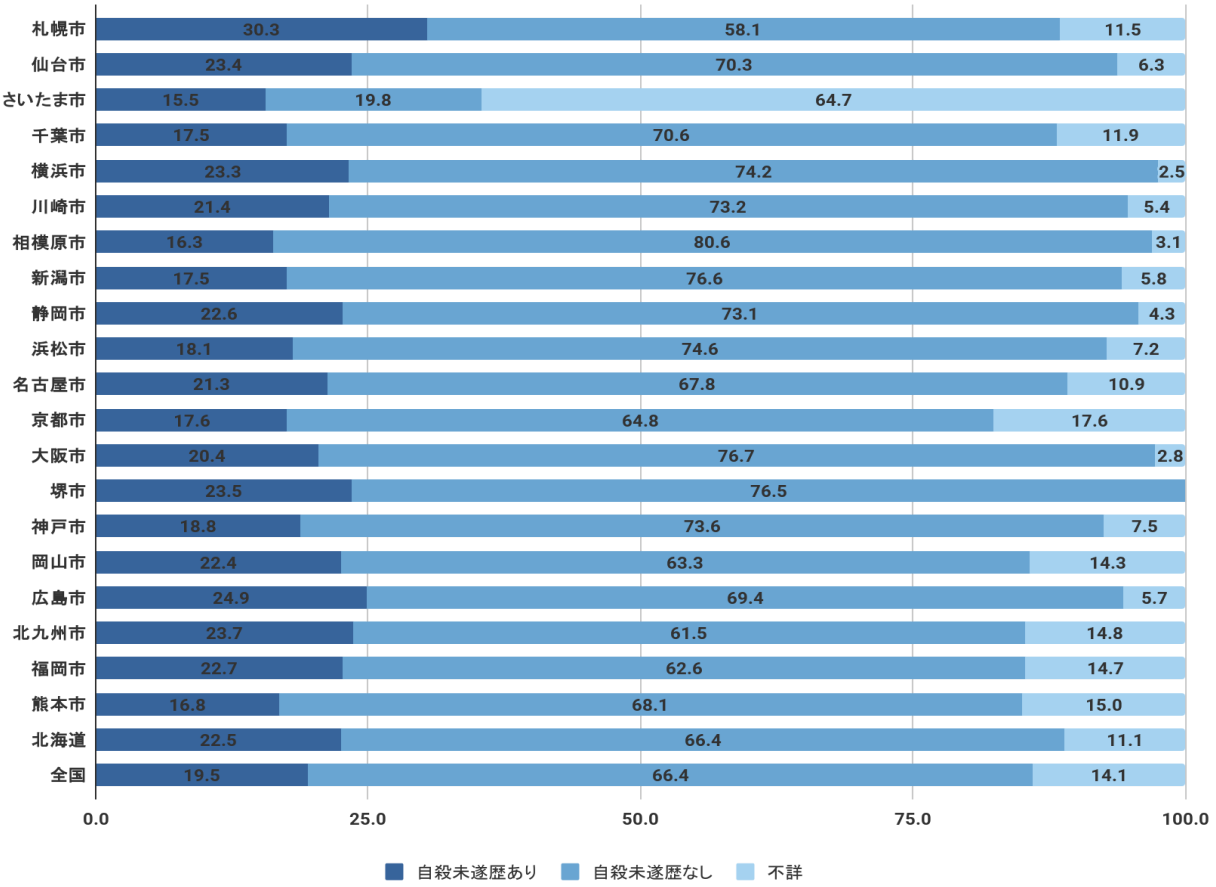
表23　自殺未遂歴の有無別自殺者数と割合（女性）　（単位：人（%））

	自殺未遂歴あり	自殺未遂歴なし	不詳	合計
2020	54 (37.8%)	63 (44.1%)	26 (18.2%)	143
2021	51 (37.5%)	65 (47.8%)	20 (14.7%)	136
2022	50 (36.2%)	69 (50.0%)	19 (13.8%)	138
2023	45 (32.8%)	78 (56.9%)	14 (10.2%)	137
2024	59 (45.0%)	56 (42.7%)	16 (12.2%)	131

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図12　各政令指定都市及び北海道・全国の自殺未遂歴の有無別自殺者の割合（2024年）

（単位：%）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

8　場所別自殺者の状況

過去５年間を通じて、自殺の約６割が「自宅等」で起きており、次いで多いのは「高層ビル」もしくは「乗り物」となっています。男女別に見ると、男性では「自宅等」に次いで「乗物」が多く、女性は「自宅等」に次いで「高層ビル」もしくは「海（湖）・河川等」が多くなっています。

他の政令指定都市の状況を見ても、自殺の半数以上は「自宅等」で起きています。

表24　場所別自殺者数と割合（総数）　（単位：人（%））

	自宅等	高層ビル	乗物	海（湖）・河川等	山	その他	合計
2020	192 (59.4%)	33 (10.2%)	21 (6.5%)	7 (2.2%)	3 (0.9%)	67 (20.7%)	323
2021	198 (58.1%)	34 (10.0%)	13 (3.8%)	16 (4.7%)	11 (3.2%)	69 (20.2%)	341
2022	225 (62.7%)	16 (4.5%)	40 (11.1%)	18 (5.0%)	4 (1.1%)	56 (15.6%)	359
2023	227 (61.4%)	11 (3.0%)	33 (8.9%)	15 (4.1%)	12 (3.2%)	72 (19.5%)	370
2024	225 (63.2%)	24 (6.7%)	28 (7.9%)	18 (5.1%)	7 (2.0%)	54 (15.2%)	356

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表25　場所別自殺者数と割合（男性）　（単位：人（%））

	自宅等	高層ビル	乗物	海（湖）・河川等	山	その他	合計
2020	94 (52.2%)	15 (8.3%)	19 (10.6%)	4 (2.2%)	3 (1.7%)	45 (25.0%)	180
2021	106 (51.7%)	16 (7.8%)	11 (5.4%)	11 (5.4%)	10 (4.9%)	51 (24.9%)	205
2022	126 (57.0%)	7 (3.2%)	34 (15.4%)	12 (5.4%)	3 (1.4%)	39 (17.6%)	221
2023	130 (55.8%)	5 (2.1%)	25 (10.7%)	12 (5.2%)	11 (4.7%)	50 (21.5%)	233
2024	133 (59.1%)	12 (5.3%)	25 (11.1%)	13 (5.8%)	5 (2.2%)	37 (16.4%)	225

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

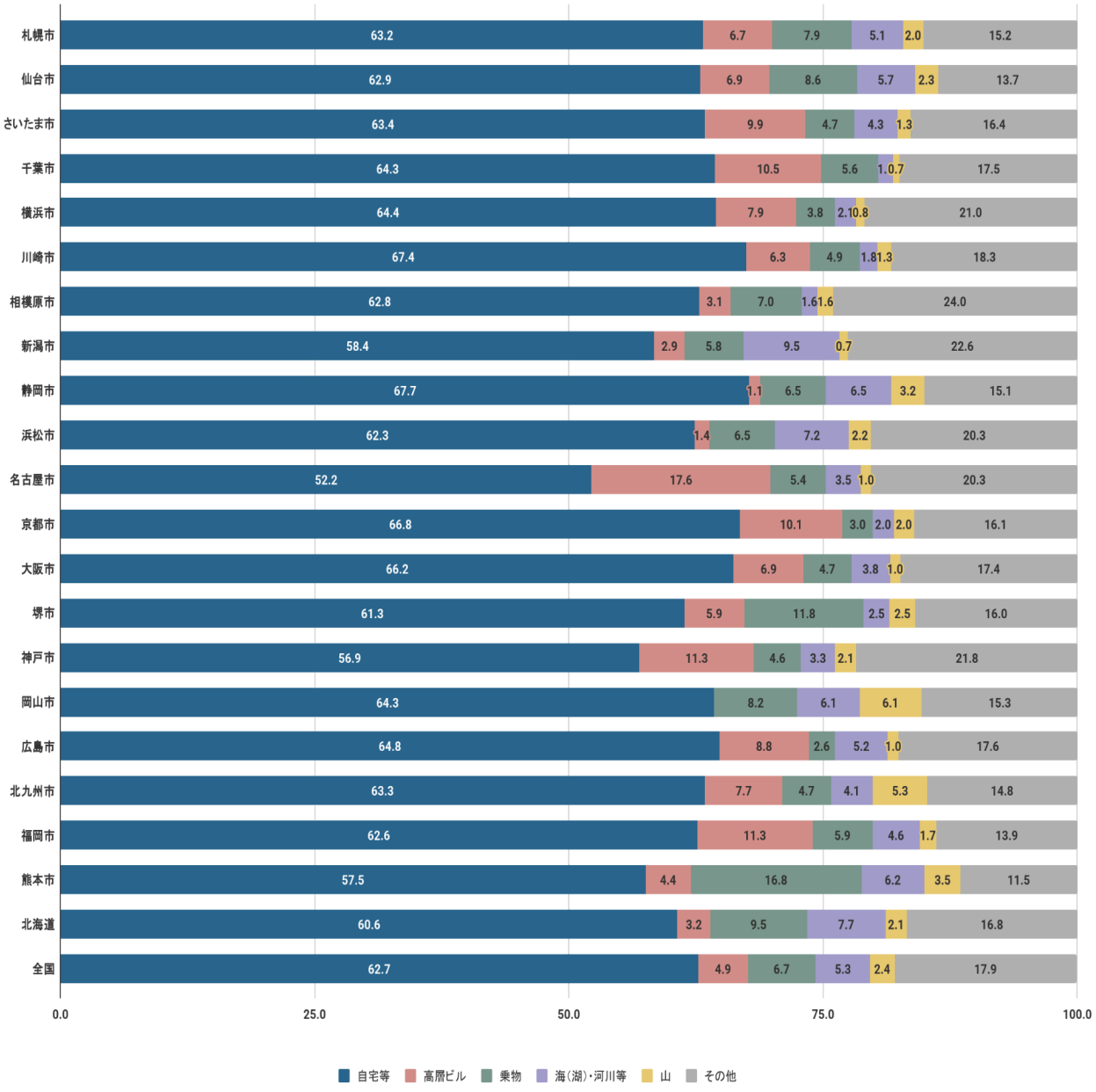
表26　場所別自殺者数と割合（女性）　（単位：人（%））

	自宅等	高層ビル	乗物	海（湖）・河川等	山	その他	合計
2020	98 (68.5%)	18 (12.6%)	2 (1.4%)	3 (2.1%)	0 (0.0%)	22 (15.4%)	143
2021	92 (67.6%)	18 (13.2%)	2 (1.5%)	5 (3.7%)	1 (0.7%)	18 (13.2%)	136
2022	99 (71.7%)	9 (6.5%)	6 (4.3%)	6 (4.3%)	1 (0.7%)	17 (12.3%)	138
2023	97 (70.8%)	6 (4.4%)	8 (5.8%)	3 (2.2%)	1 (0.7%)	22 (16.1%)	137
2024	92 (70.2%)	12 (9.2%)	3 (2.3%)	5 (3.8%)	2 (1.5%)	17 (13.0%)	131

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図13　各政令指定都市及び北海道・全国の場所別自殺者の割合（2024年）

（単位：％）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

第２部　ライフステージと自殺の状況

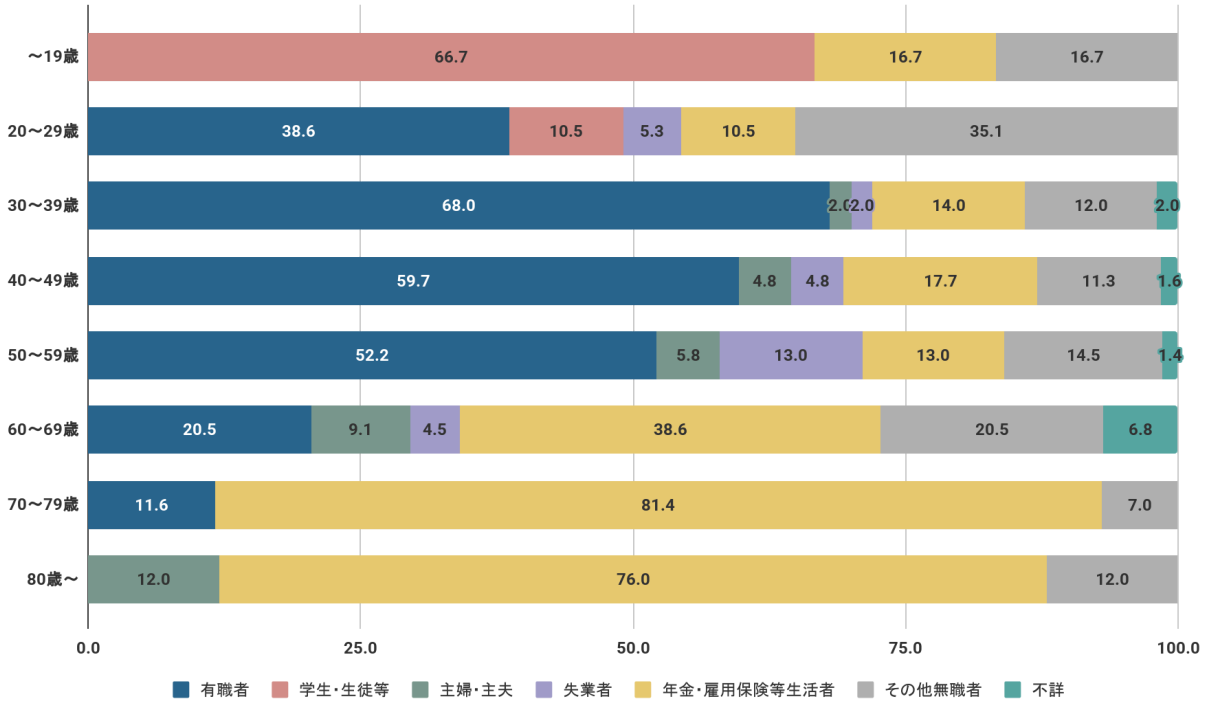
第１部では各種関連資料を基に自殺の現状を見てきましたが、自殺の背景には様々な要因が関係しているため、ライフステージごとに自殺の状況を見ていきます。

１　各年代における職業別自殺者の状況

20代～50代は「有職者」の割合が最も高く、特に30代と40代では７割を超えています。60代になると「有職者」の割合が減少して「年金・雇用保険等生活者」が増加し、70代と80歳以上では７割以上が「年金・雇用保険等生活者」となります。

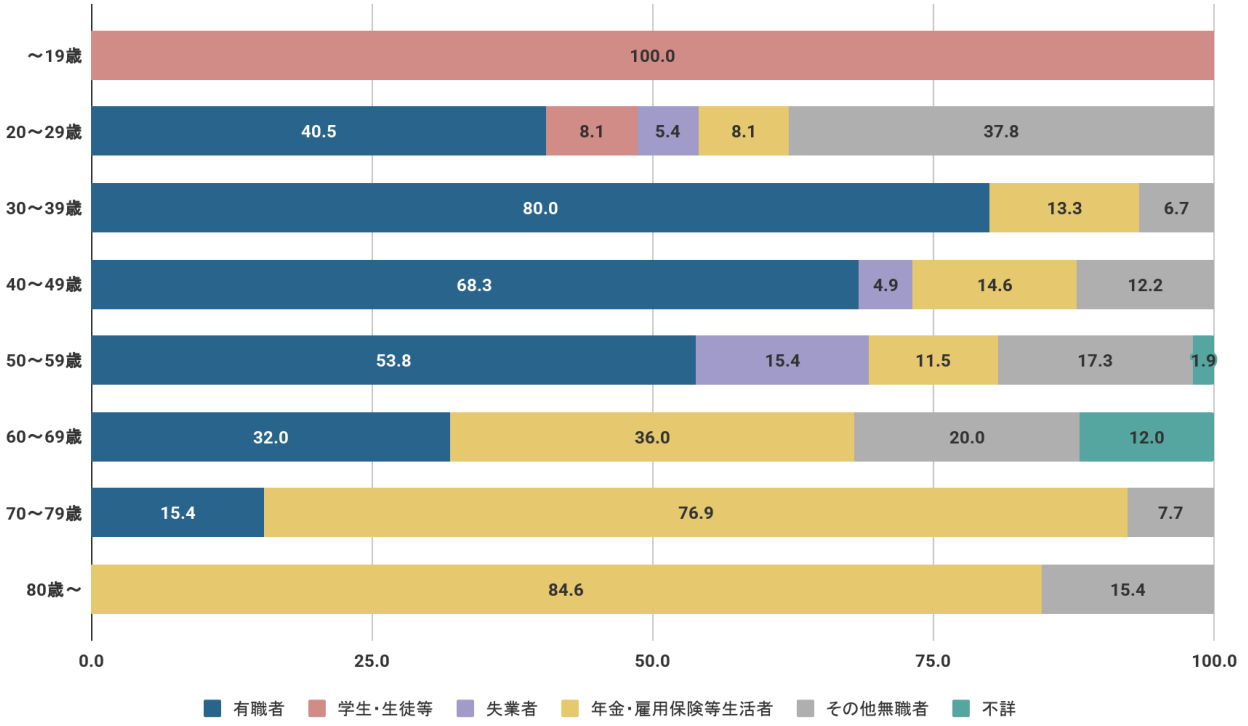
男女別に見ると、男性では、女性と比べて20代～70代での「有職者」の割合が高くなっています。また、女性では、30代～60代と80歳以上で「主婦・主夫」が一定の割合を占めています。

図14　各年代における職業別自殺者（総数）の割合（2024年）　（単位：%）



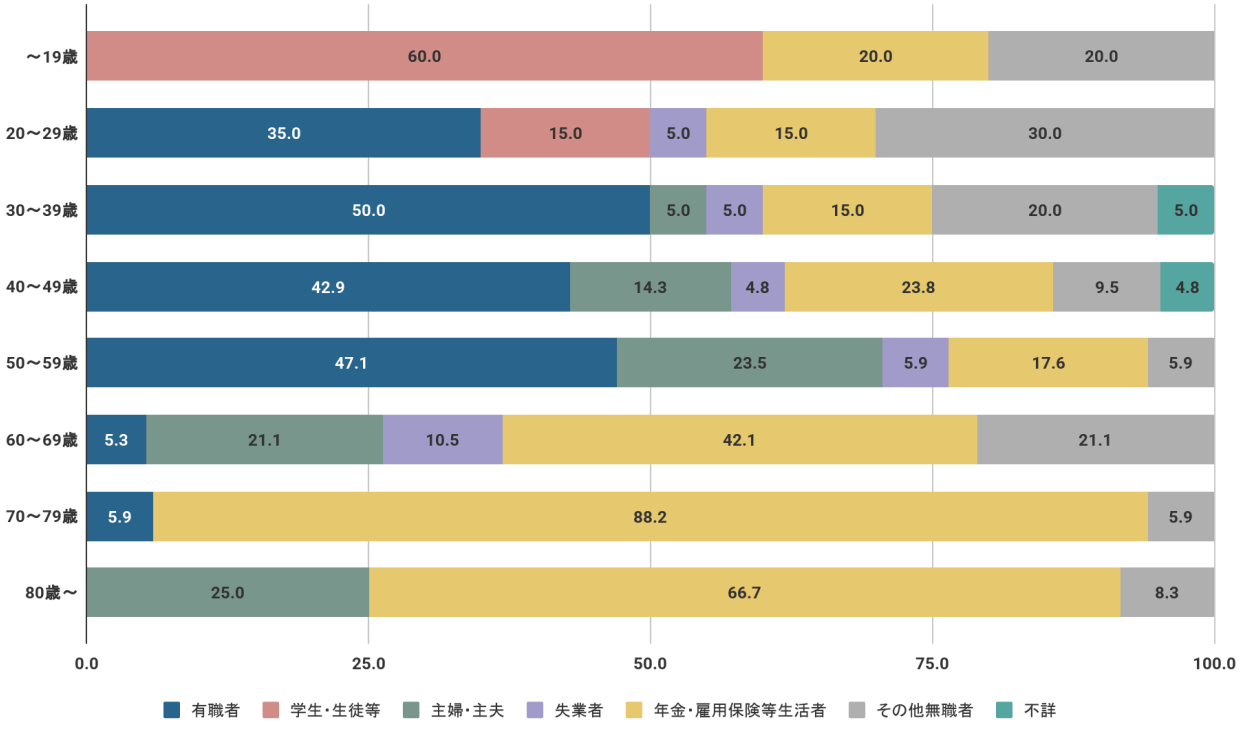
資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

図15　各年代における職業別自殺者（男性）の割合（2024年）　（単位：%）



資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

図16　各年代における職業別自殺者（女性）の割合（2024年）　（単位：%）



資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

2　各年代における原因・動機別自殺者の状況

19歳以下は「家庭問題」と「学校問題」が最も多く、全体で最も多い原因・動機である「健康問題」は０でした。20代以降は「健康問題」もしくは「経済・生活問題」が最も多く、60代以降では特に「健康問題」が多くなっています。

男女別に見ると、男性では、20代から50代は「経済・生活問題」もしくは「健康問題」が最多ですが、60代以降になると「健康問題」が増加し、他の原因・動機を上回っています。女性では、20代以降のすべての年代で「健康問題」が最多となっています。

表27　年齢階級別にみた原因・動機（2024年）　（単位：件）

原因・動機＼年齢階級		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
家庭問題	総数	2	5	17	15	17	3	8	5	0	72
	男性	0	5	12	11	12	1	4	4	0	49
	女性	2	0	5	4	5	2	4	1	0	23
健康問題	総数	0	20	19	17	22	33	27	21	0	159
	男性	0	11	9	9	15	13	12	11	0	80
	女性	0	9	10	8	7	20	15	10	0	79
経済・生活問題	総数	0	26	11	16	26	9	12	2	0	102
	男性	0	20	9	15	24	9	9	0	0	86
	女性	0	6	2	1	2	0	3	2	0	16
勤務問題	総数	0	4	11	16	18	5	1	0	0	55
	男性	0	1	7	13	15	5	1	0	0	42
	女性	0	3	4	3	3	0	0	0	0	13
交際問題	総数	1	7	5	5	4	1	0	0	0	23
	男性	0	4	1	3	4	1	0	0	0	13
	女性	1	3	4	2	0	0	0	0	0	10
学校問題	総数	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	男性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	女性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	総数	1	10	2	10	2	4	4	5	0	38
	男性	0	8	1	7	2	3	3	2	0	26
	女性	1	2	1	3	0	1	1	3	0	12

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

※自殺の原因・動機は、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に加え、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者１人につき４つまで計上可能である。このため、原因・動機特定者数と原因・動機の件数の和は一致するとは限らない。

３　各職業における原因・動機別自殺者の状況

（１）学生・生徒等の自殺

「高校生以下」では、「家庭問題」「健康問題」「交際問題」「学校問題」が主な原因・動機となっていますが、「大学生及び専修学校生等（以下「大学生等」という。）」（※）では、それらに加えて「就職失敗」や「生活苦」といった「経済・生活問題」も原因・動機となっています。

「高校生以下」の区分は大多数が女性であり、「学校問題」が多くなっています。また、「大学生等」は男性と女性がほぼ同数ですが、男性では、女性と比べて様々な原因・動機が見られます。

※「大学生」は、短大生、高等専門学校の４～５年生、大学院生等も含む。「専修学校生等」は、専修学校生と予備校生を足し合わせたもの。

表28　学生・生徒等（総数）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
高校生以下（19人）	● **家庭問題**：親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題**：病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **交際問題**：失恋 ● **学校問題**：学業不振、進路に関する悩み（入試以外）、いじめ、学友との不和（いじめ以外） ● **その他**：その他
大学生及び専修学校生等（25人）	● **家庭問題**：親子関係の不和、家族の将来悲観 ● **健康問題**：病気の悩み・影響（その他の精神疾患） ● **経済・生活問題**：就職失敗、生活苦、その他 ● **交際問題**：失恋 ● **学校問題**：学業不振、入試に関する悩み、進路に関する悩み（入試以外）、学友との不和（いじめ以外）、その他 ● **その他**：後追い自殺、その他

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

表29　学生・生徒等（男性）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
高校生以下（3人）	● **家庭問題**：家族の死亡、家族からのしつけ・叱責 ● **学校問題**：学業不振、進路に関する悩み（入試以外）
大学生及び専修学校生等（13人）	● **家庭問題**：家族の将来悲観 ● **健康問題**：病気の悩み・影響（その他の精神疾患） ● **経済・生活問題**：就職失敗、生活苦、その他 ● **交際問題**：失恋 ● **学校問題**：学業不振、入試に関する悩み、進路に関する悩み（入試以外）、学友との不和（いじめ以外）、その他 ● **その他**：後追い自殺

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

表30　学生・生徒等（女性）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
高校生以下（16人）	● **家庭問題**：親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題**：病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **交際問題**：失恋 ● **学校問題**：学業不振、いじめ、学友との不和（いじめ以外）、その他 ● **その他**：その他
大学生及び専修学校生等（12人）	● **家庭問題**：親子関係の不和 ● **経済・生活問題**：就職失敗 ● **学校問題**：学業不振、進路に関する悩み（入試以外）、学友との不和（いじめ以外） ● **その他**：その他

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

（２）無職者の自殺

全区分に共通する原因・動機は、「家庭問題」「健康問題」「経済・生活問題」となっています。

「主婦・主夫」の区分は女性にのみ見られ、この区分では「健康問題」が多くなっています。「失業者」の区分は男性が多数を占めており、男性では「経済・生活問題」、女性では「健康問題」が多くなっています。「年金等生活者」と「生活保護受給者」では「健康問題」が特に多くなっており、この傾向は男女ともに見られます。

表31　無職者（総数）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
主婦・主夫 （49人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、家族の将来悲観、子育ての悩み、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**負債（多重債務）、その他 ● **その他：**後追い自殺、その他
失業者 （45人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**事業不振、失業、就職失敗、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、仕事疲れ（その他）、解雇・雇い止め ● **その他：**その他
年金・雇用保険等生活者 （183人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、その他）、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、SNS・インターネット上のトラブル、孤独感、近隣との関係、後追い自殺、その他
生活保護受給者 （129人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、子育ての悩み、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、てんかん、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**失業、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル）、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他

	● **その他：**犯罪発覚等、SNS・インターネット上のトラブル、孤独感、近隣との関係、後追い自殺、その他
その他の無職者（170人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、摂食障害、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**失業、就職失敗、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等）、解雇・雇い止め、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、孤独感、後追い自殺、その他

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

表32　無職者（男性）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
失業者 （37人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、アルコール依存症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**事業不振、失業、就職失敗、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、仕事疲れ（その他）、解雇・雇い止め ● **その他：**その他
年金・雇用保険等生活者 （96人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、その他家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、その他）、その他 ● **交際問題：**失恋 ● **その他：**犯罪発覚等、孤独感、近隣との関係、後追い自殺、その他
生活保護受給者 （62人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、子育ての悩み、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み ● **経済・生活問題：**失業、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル）、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、孤独感、近隣との関係、後追い自殺、その他
その他の無職者 （114人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**失業、就職失敗、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等）、解雇・雇い止め、その他 ● **交際問題：**失恋、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、孤独感、後追い自殺、その他

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

表33　無職者（女性）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
主婦・主夫 （49人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、家族の将来悲観、子育ての悩み、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**負債（多重債務）、その他 ● **その他：**後追い自殺、その他
失業者 （8人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他の原因）、その他の家族関係の不和 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患） ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、解雇・雇い止め
年金・雇用保険等生活者 （87人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、その他の原因）、親子関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（その他）、その他 ● **交際問題：**不倫・浮気、その他 ● **その他：**SNS・インターネット上のトラブル、孤独感、後追い自殺、その他
生活保護受給者 （67人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、子育ての悩み、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（てんかん、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**失業、生活苦、負債（その他）、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**SNS・インターネット上のトラブル、孤独感、近隣との関係、後追い自殺
その他の無職者 （56人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、摂食障害、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**就職失敗、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、後追い自殺、その他

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

（3）有職者の自殺

全区分に共通する原因・動機は、「家庭問題」「健康問題」「経済・生活問題」「勤務問題」となっています。最も多い「管理的職業従事者」は、大多数が男性であり、男性では「経済・生活問題」、女性では「健康問題」が多くなっています。次いで多い「サービス従事者」は、男性と女性の人数に大きな差はありませんが、男性では「勤務問題」、女性では「健康問題」「交際問題」が多くなっています。

表34　有職者（総数）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
管理的職業従事者（70人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、その他の原因）、親子関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、子育ての悩み ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、その他 ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、結婚に関する悩み ● **その他：**犯罪被害、犯罪発覚等、その他
専門的・技術的職業従事者（64人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、家族の将来悲観、子育ての悩み、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患）、身体障害の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、連帯保証債務、ギャンブル等、その他）、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、仕事の失敗、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪被害、犯罪発覚等、孤独感、その他
事務従事者（33人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和、子育ての悩み、 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等）、借金の取立て苦 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、仕事の失敗 ● **交際問題：**失恋、結婚に関する悩み、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、孤独感
販売従事者（50人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、子育ての悩み、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統

	合失調症、アルコール依存症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（その他）、解雇・雇い止め、取引先等とのトラブル、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、その他
サービス業従事者（65人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、その他の家族関係の不和、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、子育ての悩み、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患）、身体障害の悩み ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、奨学金の返済苦、自殺による保険金支給 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、解雇・雇い止め、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、結婚に関する悩み、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、性的少数者であることの悩み・被差別、孤独感、後追い自殺、その他
保安職従事者（13人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他の原因）、親子関係の不和、家族・同居人からのネグレクト ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（ギャンブル等）、借金の取立て苦、自殺による保険金支給 ● **勤務問題：**職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、その他
生産工程従事者（16人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、その他の原因） ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等） ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他） ● **その他：**後追い自殺
輸送・機械運転従事者（17人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、介護・看病疲れ ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、その他） ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、仕事の失敗 ● **交際問題：**失恋 ● **その他：**犯罪発覚等
建設・採掘従事者（50人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、家族の将来悲観、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、取引先等とのトラブル、

	仕事の失敗、その他 ● **交際問題：**失恋 ● **その他：**孤独感
通信・運輸・清掃・包装等従事者（23人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他）、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患）、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、その他）、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（その他）、仕事疲れ（その他）、仕事の失敗、その他 ● **その他：**孤独感、その他
その他（44人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、子育ての悩み ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、薬物乱用）、身体障害の悩み ● **経済・生活問題：**負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（その他）、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、結婚に関する悩み、その他 ● **その他：**SNS・インターネット上のトラブル

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

表35　有職者（男性）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
管理的職業従事者（65人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、その他の原因）、親子関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、子育ての悩み ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患）、その他 ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、結婚に関する悩み ● **その他：**犯罪発覚等、その他
専門的・技術的職業従事者（48人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、不倫・浮気、その他の原因）、家族の将来悲観、家族からのしつけ・叱責 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病）、身体障害の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、仕事の失敗、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気 ● **その他：**犯罪被害、犯罪発覚等、孤独感、その他
事務従事者（13人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、親子関係の不和 ● **健康問題：**病気の悩み・影響（うつ病、アルコール依存症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**負債（多重債務、ギャンブル等）、借金の取立て苦 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、仕事の失敗 ● **その他：**犯罪発覚等
販売従事者（39人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、アルコール依存症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（その他）、解雇・雇い止め、取引先等とのトラブル、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、その他
サービス業従事者（35人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、その他の家族関係の不和、家族の将来悲観、その他 ● **健康問題：**病気の悩み・影響（うつ病）、身体障害の悩み ● **経済・生活問題：**事業不振、生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、

	その他）、自殺による保険金支給 ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、解雇・雇い止め、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、その他 ● **その他：**犯罪発覚等、性的少数者であることの悩み・被差別、孤独感、その他
保安職従事者（13人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他の原因）、親子関係の不和、家族・同居人からのネグレクト ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（ギャンブル等）、借金の取立て苦、自殺による保険金支給 ● **勤務問題：**職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、その他
生産工程従事者	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（DV、その他の原因） ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等） ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他） ● **その他：**後追い自殺
輸送・機械運転従事者	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、介護・看病疲れ ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、その他） ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、仕事の失敗 ● **交際問題：**失恋 ● **その他：**犯罪発覚等
建設・採掘従事者	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、家族の将来悲観、その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦、その他 ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他）、取引先等とのトラブル、仕事の失敗、その他 ● **交際問題：**失恋 ● **その他：**孤独感
通信・運輸・清掃・包装等従事者（15人）	● **家庭問題：**その他 ● **健康問題：**病気の悩み（その他の身体疾患）、認知機能低下の悩み、その他 ● **経済・生活問題：**生活苦、負債（多重債務、その他） ● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（その他）、仕事疲れ（その他）、仕事の失敗、その他 ● **その他：**孤独感、その他
その他（33人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（不倫・浮気、その他の原因）、家族の死亡、家族の将来悲観 ● **健康問題：**病気の悩み（悪性新生物）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、薬物乱用） ● **経済・生活問題：**負債（多重債務、ギャンブル等、その他）、借金の取立て苦

	● **勤務問題：**職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等、その他）、仕事疲れ（その他）、仕事の失敗、過重なノルマ・ノルマの不達成、その他 ● **交際問題：**失恋、その他 ● **その他：**SNS・インターネット上のトラブル

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

※「生産工程従事者」「輸送・機械運転従事者」「建設・採掘従事者」は個人情報保護の観点から男女の人数は記載しない。

表36　有職者（女性）の自殺者の主な原因・動機（2022年～2024年（３年間）合計）

区分（人数）	主な原因・動機
管理的職業従事者（5人）	● **健康問題**：病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病）、その他 ● **その他**：犯罪被害、その他
専門的・技術的職業従事者（16人）	● **家庭問題**：家族の死亡、子育ての悩み、家族からのしつけ・叱責、その他 ● **健康問題**：病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題**：生活苦、負債（連帯保証債務） ● **勤務問題**：職場の人間関係（上司とのトラブル、その他）、職場環境の変化（その他） ● **交際問題**：その他 ● **その他**：その他
事務従事者（20人）	● **家庭問題**：夫婦関係の不和（その他の原因）、子育ての悩み ● **健康問題**：病気の悩み（その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症） ● **経済・生活問題**：事業不振、生活苦 ● **勤務問題**：職場の人間関係（その他）、仕事疲れ（長時間労働、その他） ● **交際問題**：失恋、結婚に関する悩み、その他 ● **その他**：孤独感
販売従事者（11人）	● **家庭問題**：夫婦関係の不和（不倫・浮気）、家族の死亡、子育ての悩み、その他 ● **健康問題**：病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題**：負債（その他） ● **勤務問題**：職場環境の変化（その他） ● **交際問題**：その他
サービス業従事者（30人）	● **家庭問題**：夫婦関係の不和（その他の原因）、家族の将来悲観、介護・看病疲れ、子育ての悩み、その他 ● **健康問題**：病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題**：生活苦、奨学金の返済苦 ● **勤務問題**：職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（その他）、仕事疲れ（長時間労働）、その他 ● **交際問題**：失恋、不倫・浮気、結婚に関する悩み、その他 ● **その他**：犯罪発覚等、後追い自殺
生産工程従事者	● **健康問題**：病気の悩み・影響（統合失調症）
輸送・機械運転従事者	不明
建設・採掘従事者	● **健康問題**：病気の悩み・影響（うつ病）
通信・運輸・清掃・包装等従事者（8人）	● **家庭問題**：夫婦関係の不和（その他の原因）、その他 ● **健康問題**：病気の悩み（悪性新生物、その他の身体疾患）、病気の悩み・影響（うつ病、その他の精神疾患） ● **経済・生活問題**：生活苦、負債（その他）、その他

	● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、仕事の失敗、その他
その他 （11人）	● **家庭問題：**夫婦関係の不和（その他の原因）、その他の家族関係の不和、子育ての悩み ● **健康問題：**病気の悩み・影響（うつ病）、身体障害の悩み ● **経済・生活問題：**負債（多重債務） ● **勤務問題：**職場の人間関係（その他）、職場環境の変化（役割・地位の変化等）、その他 ● **交際問題：**失恋、不倫・浮気、結婚に関する悩み

資料：警視庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成

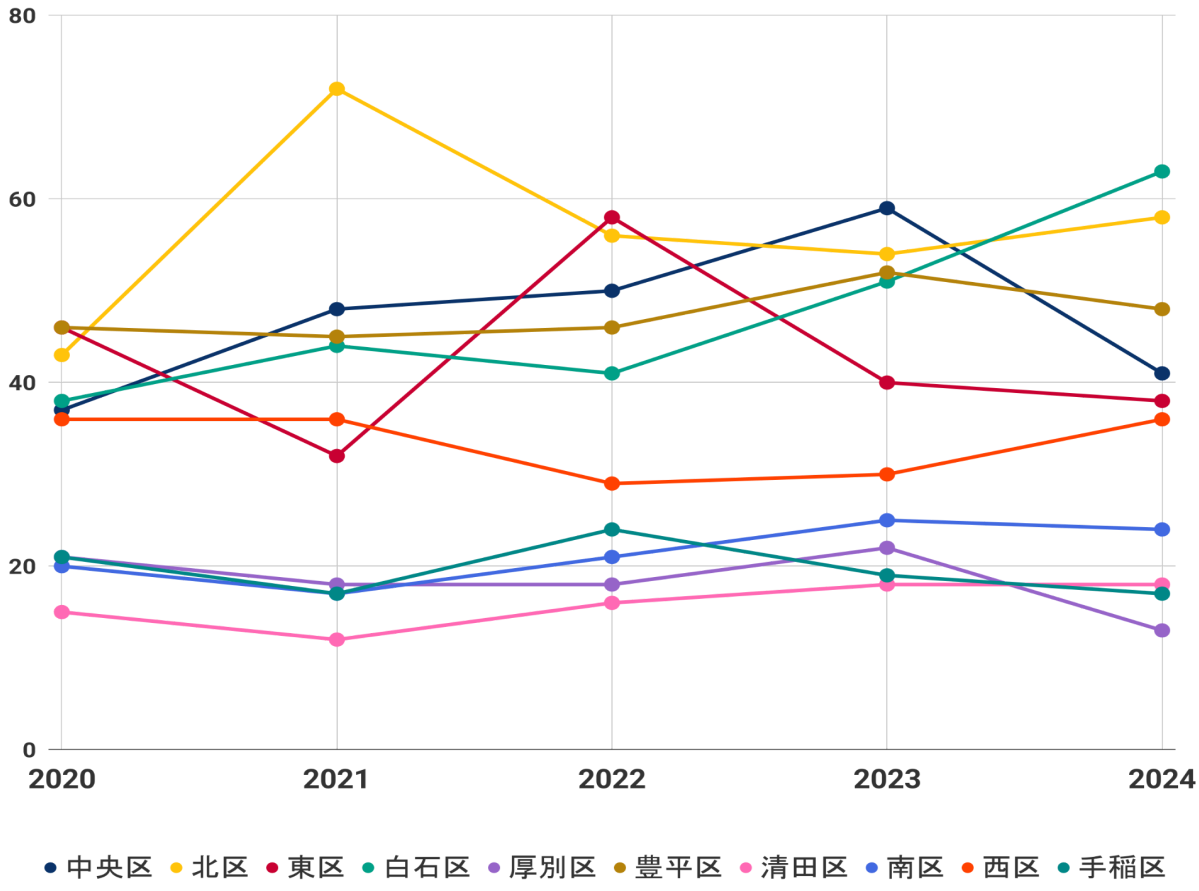
※「生産工程従事者」「輸送・機械運転従事者」「建設・採掘従事者」は個人情報保護の観点から男女の人数は記載しない。

第３部　各区における自殺の状況

１　各区の自殺者数と自殺死亡率の推移

各区における直近５年間の合計自殺者数は、北区、白石区・豊平区の順に多く（白石区と豊平区は同数）、清田区、厚別区、手稲区の順に少なくなっています。また、自殺死亡率は、白石区、豊平区、北区の順に高く、手稲区、清田区、厚別区の順に低くなっています。

図17　各区の自殺者数の推移　　（単位：人）



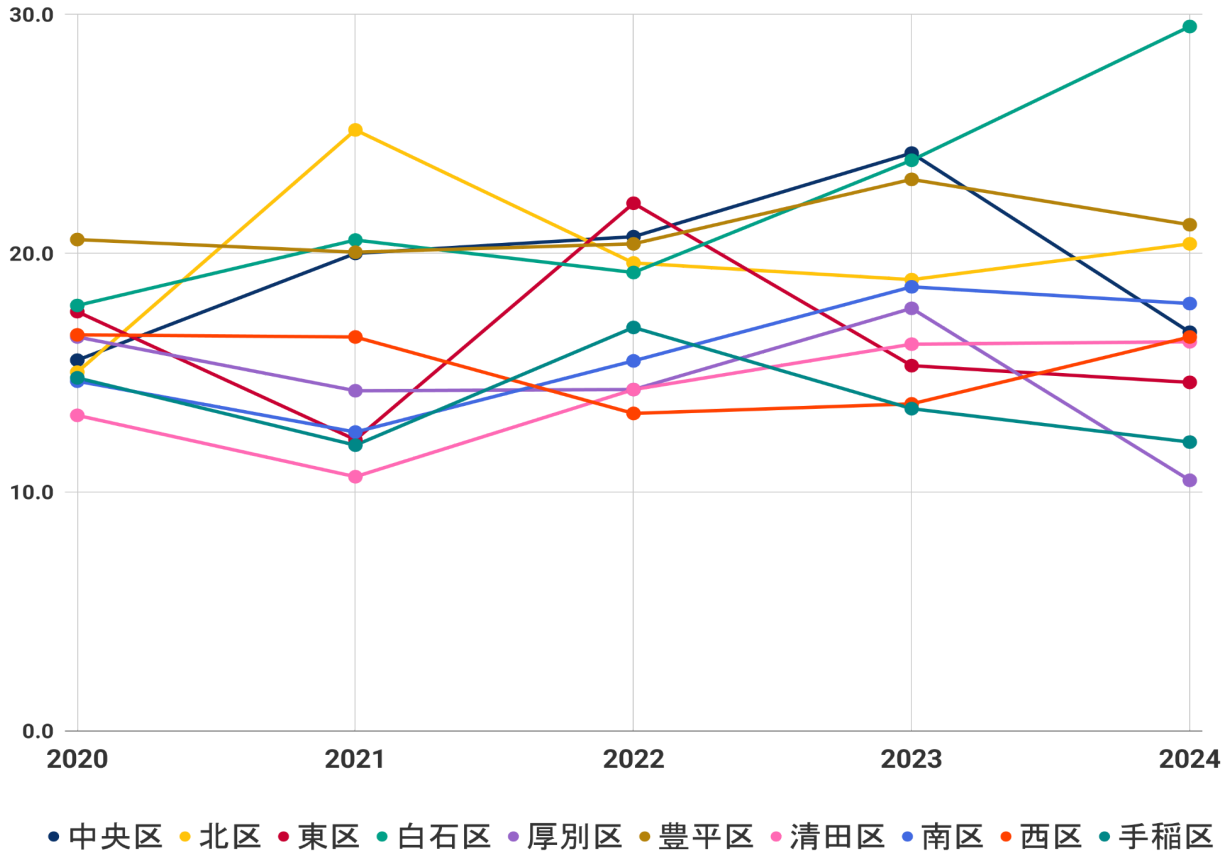
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表37　各区の自殺者数の推移　　（単位：人）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	５年合計
中央区	37	48	50	59	41	235
北区	43	72	56	54	58	283
東区	46	32	58	40	38	214
白石区	38	44	41	51	63	237
厚別区	21	18	18	22	13	92
豊平区	46	45	46	52	48	237
清田区	15	12	16	18	18	79
南区	20	17	21	25	24	107
西区	36	36	29	30	36	167
手稲区	21	17	24	19	17	98

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

図18　各区の自殺死亡率の推移　　（単位：人口10万人あたり）



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成
※順位は、小数点第２位以下で判断

表38　各区の自殺死亡率の推移　　（単位：人口10万人あたり）

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	５年合計
中央区	15.5	20.0	20.7	24.2	16.7	19.4
北区	15.0	25.2	19.6	18.9	20.4	19.8
東区	17.6	12.2	22.1	15.3	14.6	16.4
白石区	17.8	20.6	19.2	23.9	29.5	22.2
厚別区	16.5	14.3	14.3	17.7	10.5	14.7
豊平区	20.6	20.1	20.4	23.1	21.2	21.1
清田区	13.2	10.7	14.3	16.2	16.3	14.1
南区	14.7	12.5	15.5	18.6	17.9	15.8
西区	16.6	16.5	13.3	13.7	16.5	15.2
手稲区	14.8	12.0	16.9	13.5	12.1	13.8

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成
※順位は、小数点第２位以下で判断

2　各区の年代別の自殺者数と自殺死亡率

札幌市各区の年代別に見た自殺者数と自殺死亡率の傾向については、より直近の傾向が捉えられるよう、過去３年間（令和４年（2022年）～令和６年（2024年））のデータを用いています。

全体を通して、白石区、豊平区、中央区、北区の４区が上位に入る傾向があります。中でも白石区は、19歳以下、30代、50代、60代の４つの年代において、自殺死亡率が最も高くなっています。

表39　各区の年代別自殺者数（2022年～2024年（３年間）合計）　（単位：人）

順位	19歳以下		20～29歳		30～39歳		40～49歳	
	区	自殺者数	区	自殺者数	区	自殺者数	区	自殺者数
1	北区	7	中央区	36	白石区	24	豊平区	34
2	東区	7	豊平区	25	中央区	23	中央区	33
3	白石区	6	白石区	24	豊平区	21	東区	32
4	豊平区	6	北区	23	北区	16	北区	28
5	手稲区	3	東区	20	東区	16	白石区	28
6	南区	2	西区	12	西区	13	西区	22
7	中央区	1	厚別区	8	手稲区	10	厚別区	12
8	清田区	1	清田区	8	南区	6	南区	10
9	西区	1	南区	7	清田区	4	清田区	6
10	厚別区	0	手稲区	7	厚別区	2	手稲区	6
	合計	34	合計	170	合計	135	合計	211
順位	50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	区	自殺者数	区	自殺者数	区	自殺者数	区	自殺者数
1	白石区	34	北区	20	北区	21	北区	21
2	北区	32	白石区	15	白石区	20	西区	9
3	東区	31	中央区	14	豊平区	18	中央区	8
4	中央区	23	東区	13	南区	13	東区	8
5	豊平区	23	豊平区	13	中央区	12	清田区	7
6	西区	18	西区	12	手稲区	11	南区	7
7	南区	16	南区	9	東区	9	豊平区	6
8	清田区	13	清田区	8	厚別区	8	厚別区	5
9	厚別区	12	厚別区	6	西区	8	手稲区	5
10	手稲区	12	手稲区	6	清田区	5	白石区	4
	合計	214	合計	116	合計	125	合計	80

資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成

表40　各区の年代別自殺死亡率（2022年～2024年（３年間）合計）　（単位：人口10万人あたり）

順位	19歳以下		20～29歳		30～39歳		40～49歳	
	区	死亡率	区	死亡率	区	死亡率	区	死亡率
1	白石区	6.8	中央区	41.3	白石区	29.2	豊平区	34.1
2	豊平区	6.4	清田区	33.8	中央区	24.1	中央区	29.4
3	東区	5.8	白石区	33.1	手稲区	23.9	白石区	28.8
4	北区	5.1	豊平区	30.7	豊平区	23.7	東区	27.2
5	手稲区	4.3	厚別区	25.4	西区	17.0	厚別区	24.3
6	南区	3.5	北区	25.3	東区	16.9	西区	22.7
7	清田区	1.7	東区	24.4	北区	16.9	北区	22.6
8	中央区	1.0	南区	22.1	南区	16.4	南区	19.9
9	西区	1.0	手稲区	21.7	清田区	13.6	清田区	12.8
10	厚別区	0.0	西区	19.5	厚別区	5.8	手稲区	10.0
	札幌市	3.9	札幌市	28.6	札幌市	20.0	札幌市	24.7

順位	50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上	
	区	死亡率	区	死亡率	区	死亡率	区	死亡率
1	白石区	35.2	白石区	19.7	白石区	27.2	北区	28.2
2	南区	29.3	北区	19.1	豊平区	23.1	清田区	23.3
3	東区	27.5	豊平区	16.4	南区	19.7	西区	14.9
4	清田区	26.9	清田区	16.3	北区	19.2	南区	14.4
5	北区	26.6	中央区	15.8	手稲区	17.0	中央区	13.7
6	豊平区	23.4	南区	15.1	中央区	15.4	厚別区	13.0
7	厚別区	21.6	西区	14.6	厚別区	13.8	手稲区	12.2
8	手稲区	21.6	東区	13.9	清田区	10.2	東区	12.1
9	中央区	20.1	厚別区	10.9	西区	9.5	豊平区	10.3
10	西区	19.1	手稲区	10.2	東区	9.3	白石区	7.6
	札幌市	25.1	札幌市	15.5	札幌市	16.5	札幌市	15.2

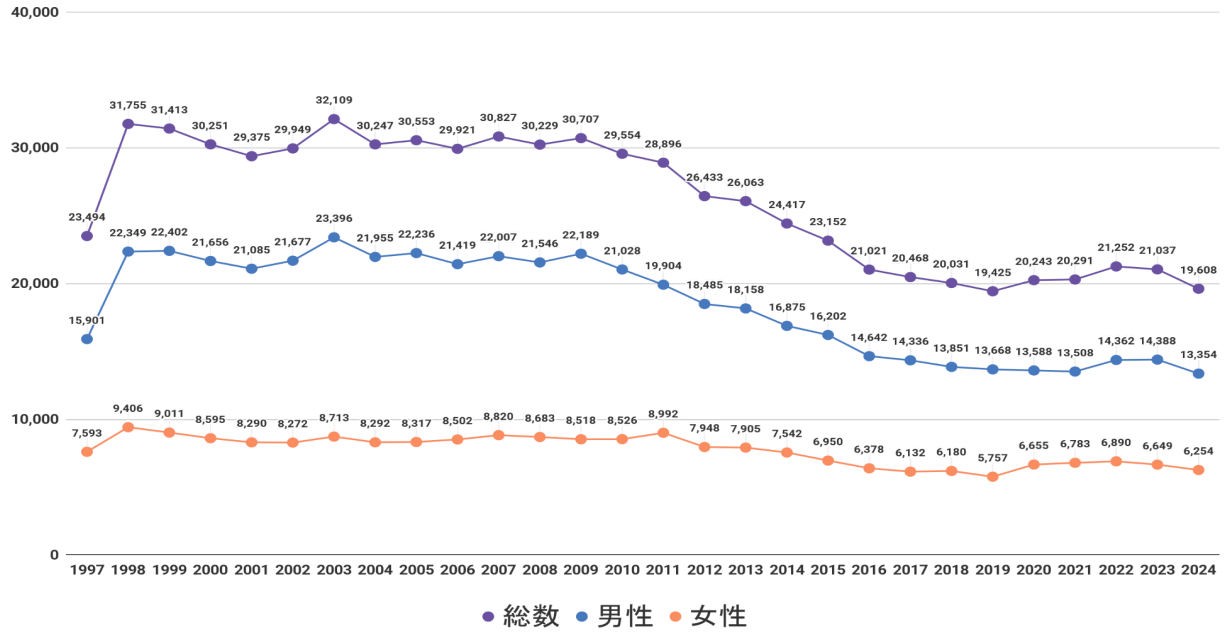
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」及び総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」を基に作成

※順位は、小数点第２位以下で判断

第４部　資料

図19　全国における自殺者数の推移

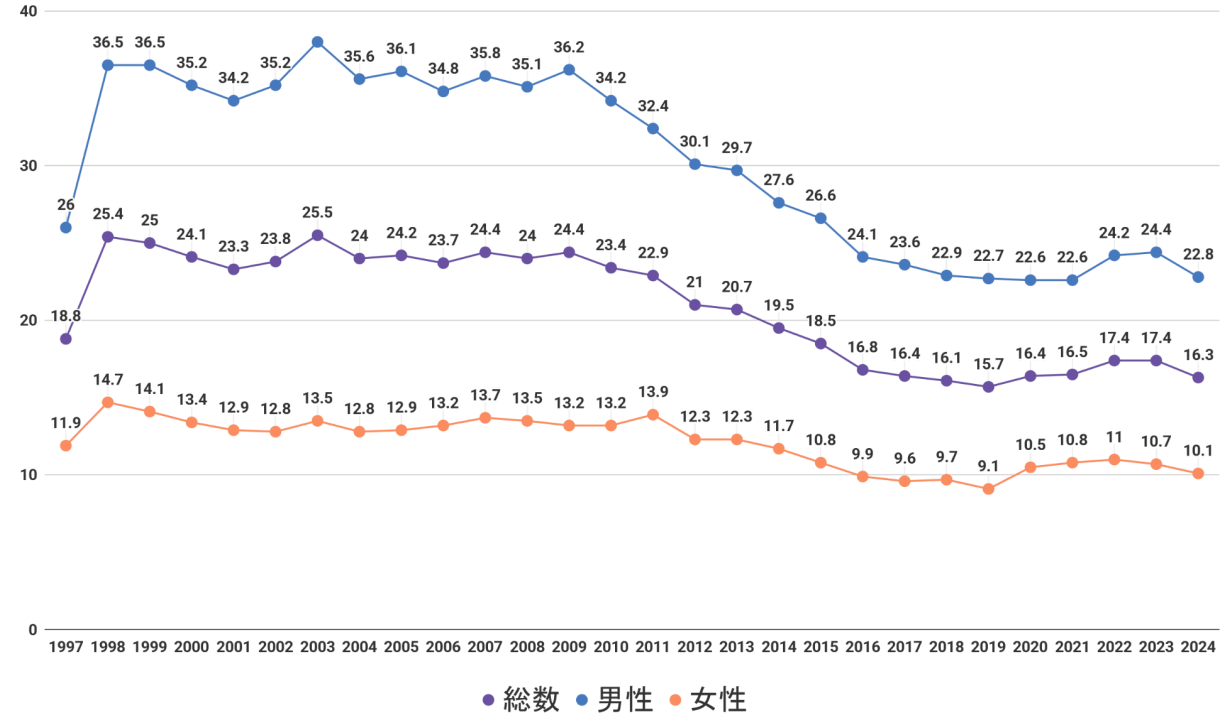
（単位：人）



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成

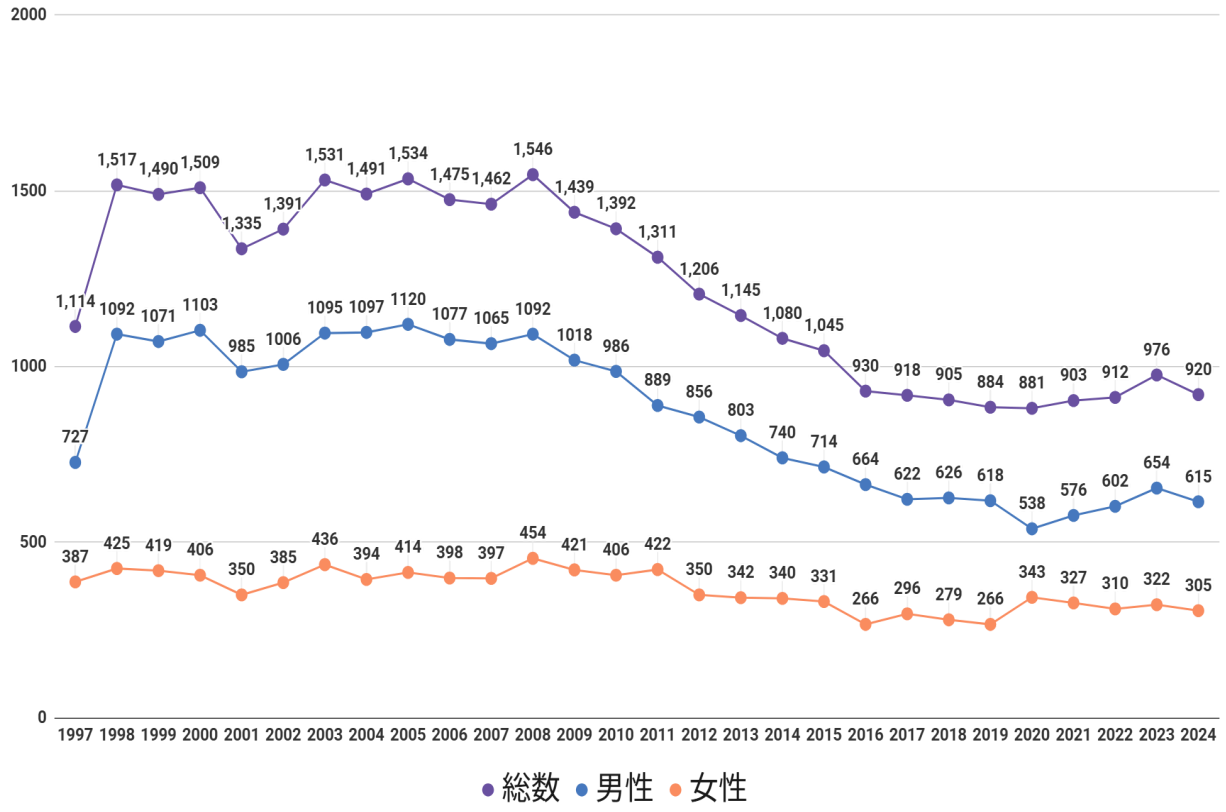
図20　全国における自殺死亡率の推移

（単位：人口10万人あたり）



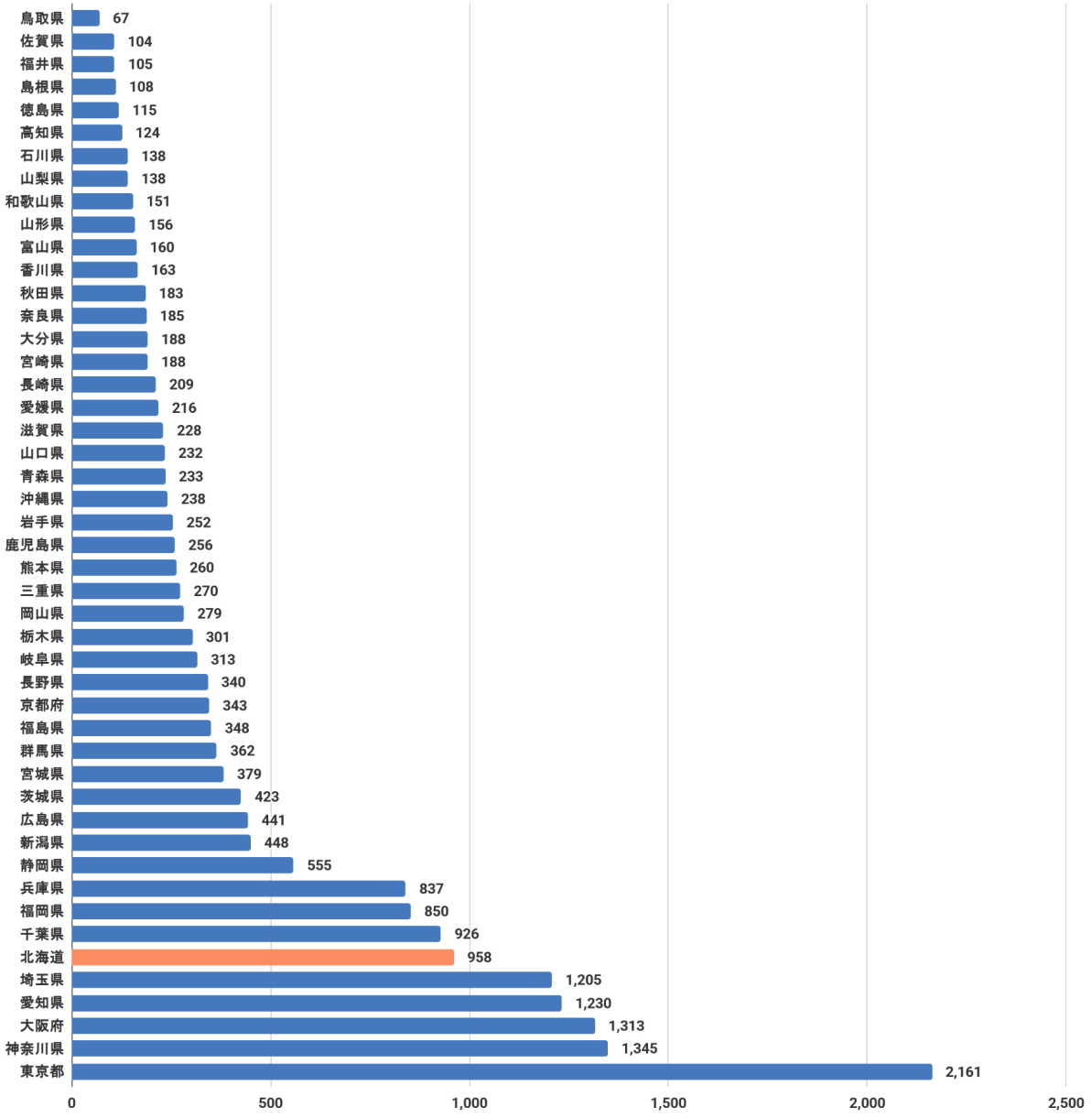
資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成
※順位は、小数点第２位以下で判断

図21　北海道における自殺者数の推移　　（単位：人）



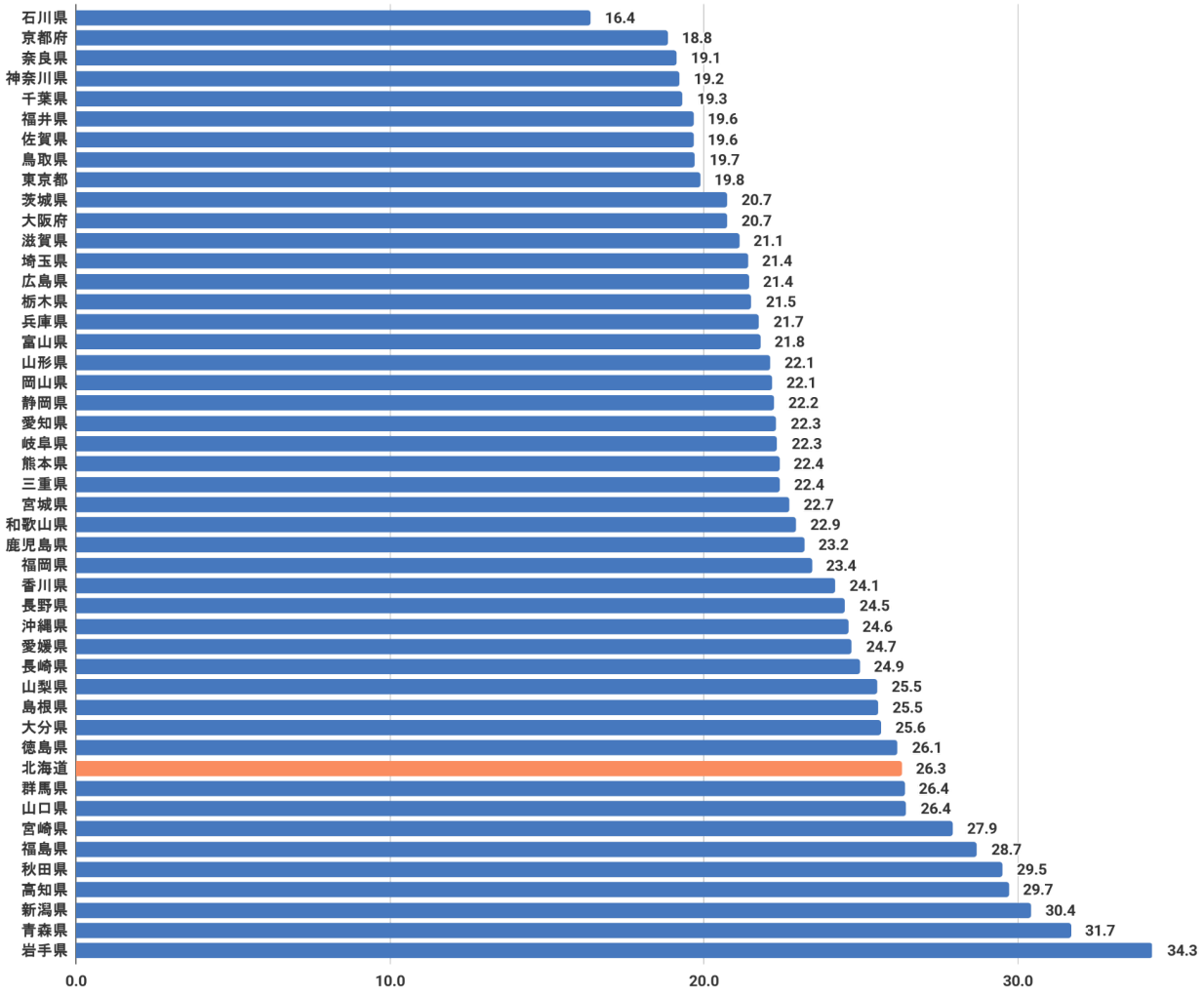
資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成

図22　各都道府県の自殺者数（2024年）　　（単位：人）



資料：厚生労働省「人口動態統計」を基に作成

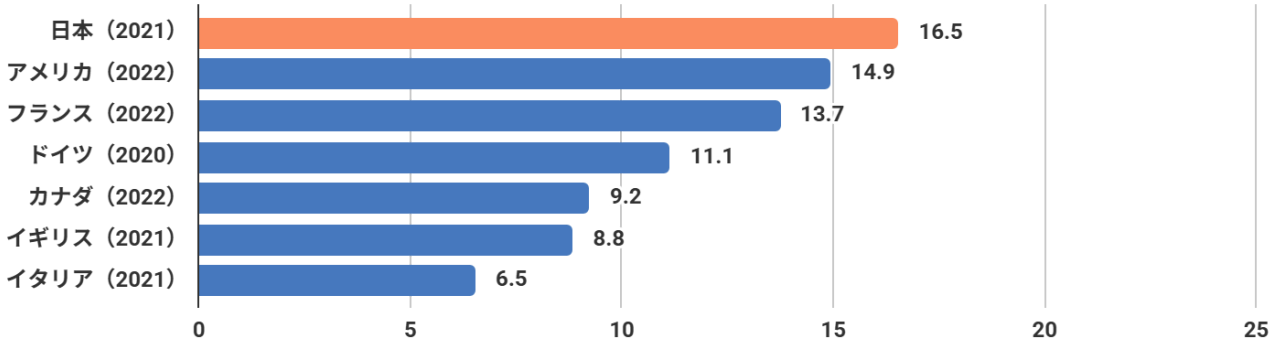
図23　各都道府県の自殺死亡率（2024年）　　（単位：人口10万人あたり）



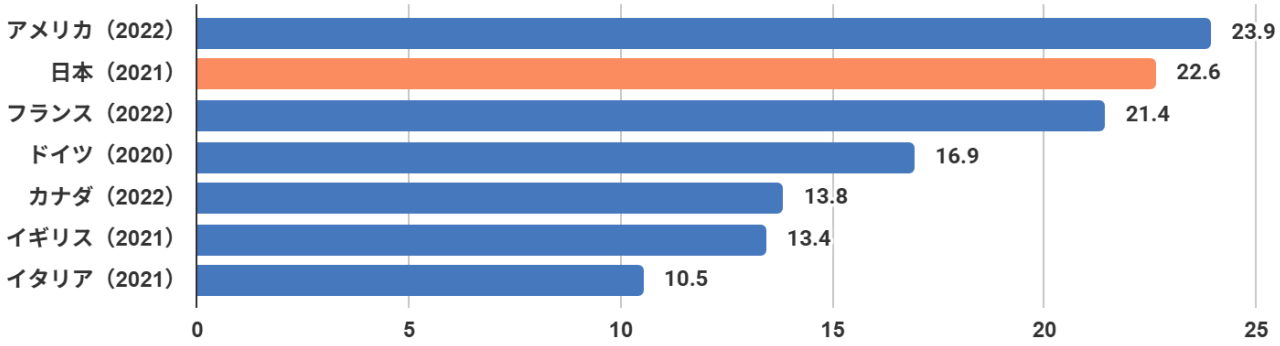
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」を基に作成
※順位は、小数点第２位以下で判断

図24　Ｇ７各国の自殺死亡率

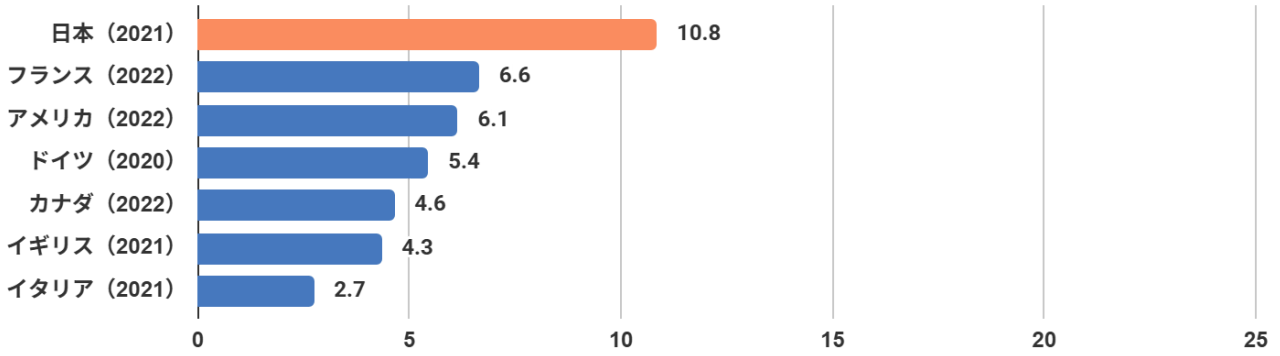
【総数】



【男性】



【女性】



出典：令和７年度自殺対策白書（厚生労働省作成）
資料：世界保健機関資料（2025年２月）等より厚生労働省作成

※アメリカ、イギリス及びカナダの人口は、世界保健機関資料より最新データが得られなかったため、各国の公的統計データを利用した。